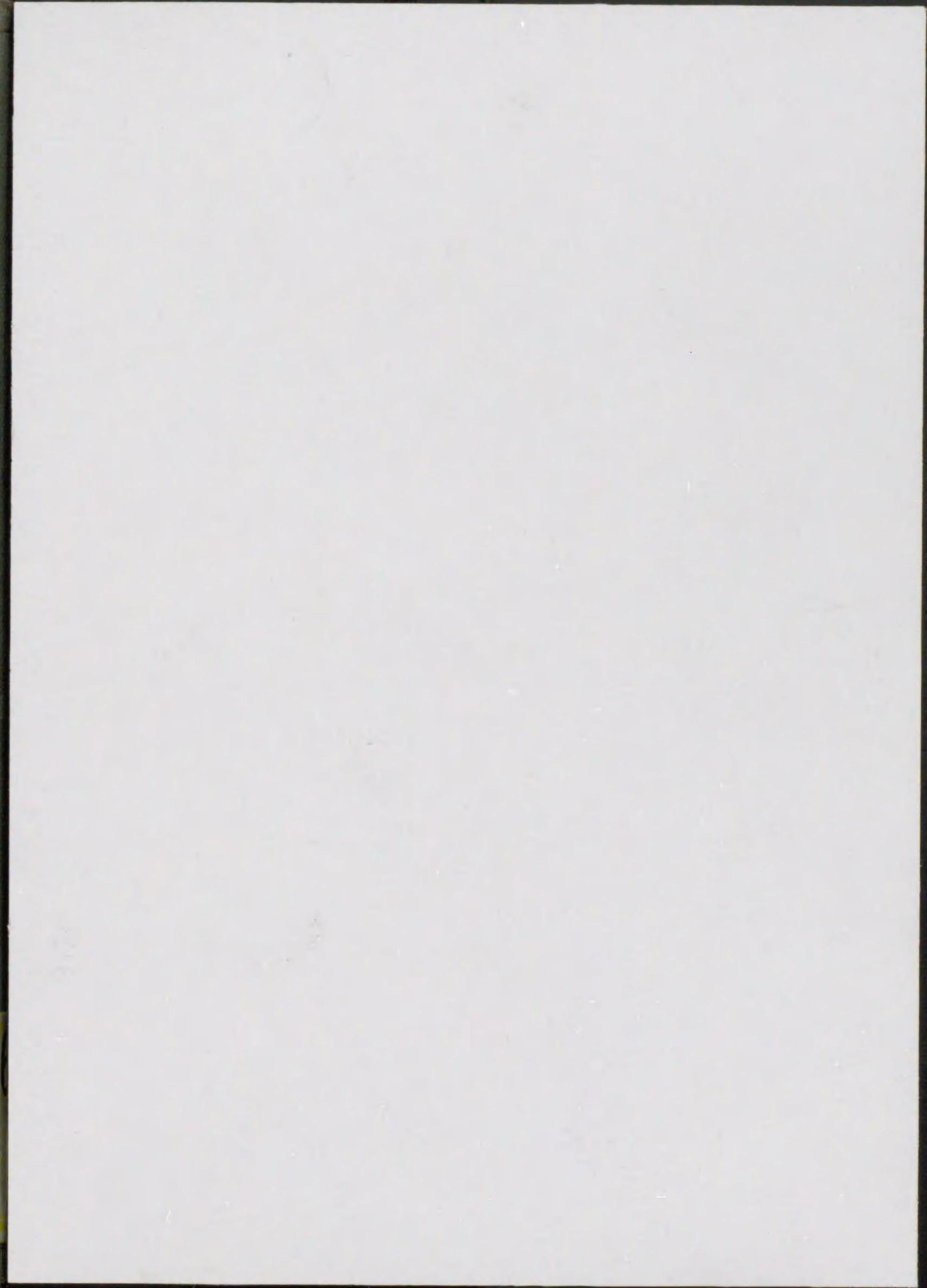


646
26
3

646-3

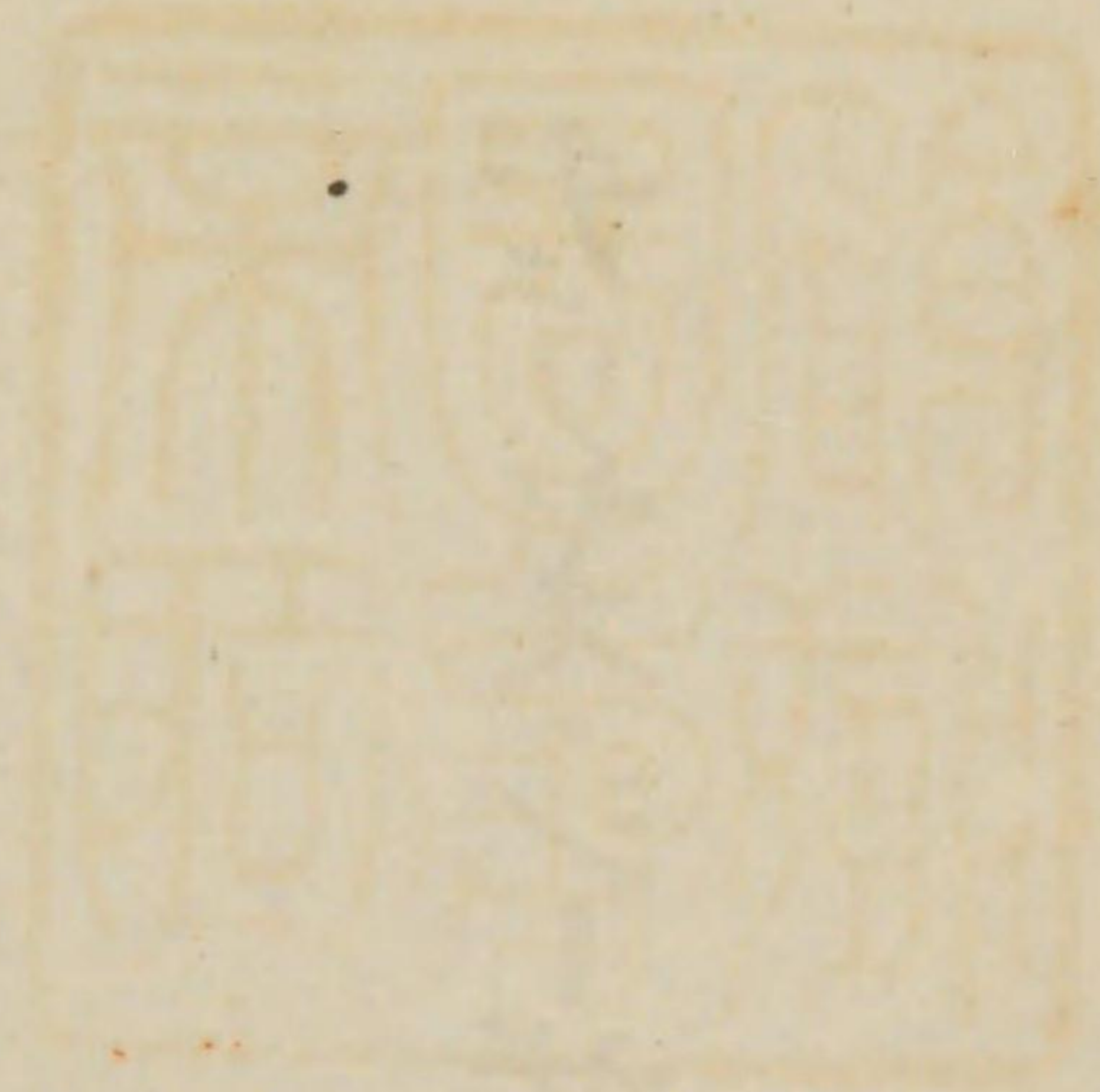


1200501568072

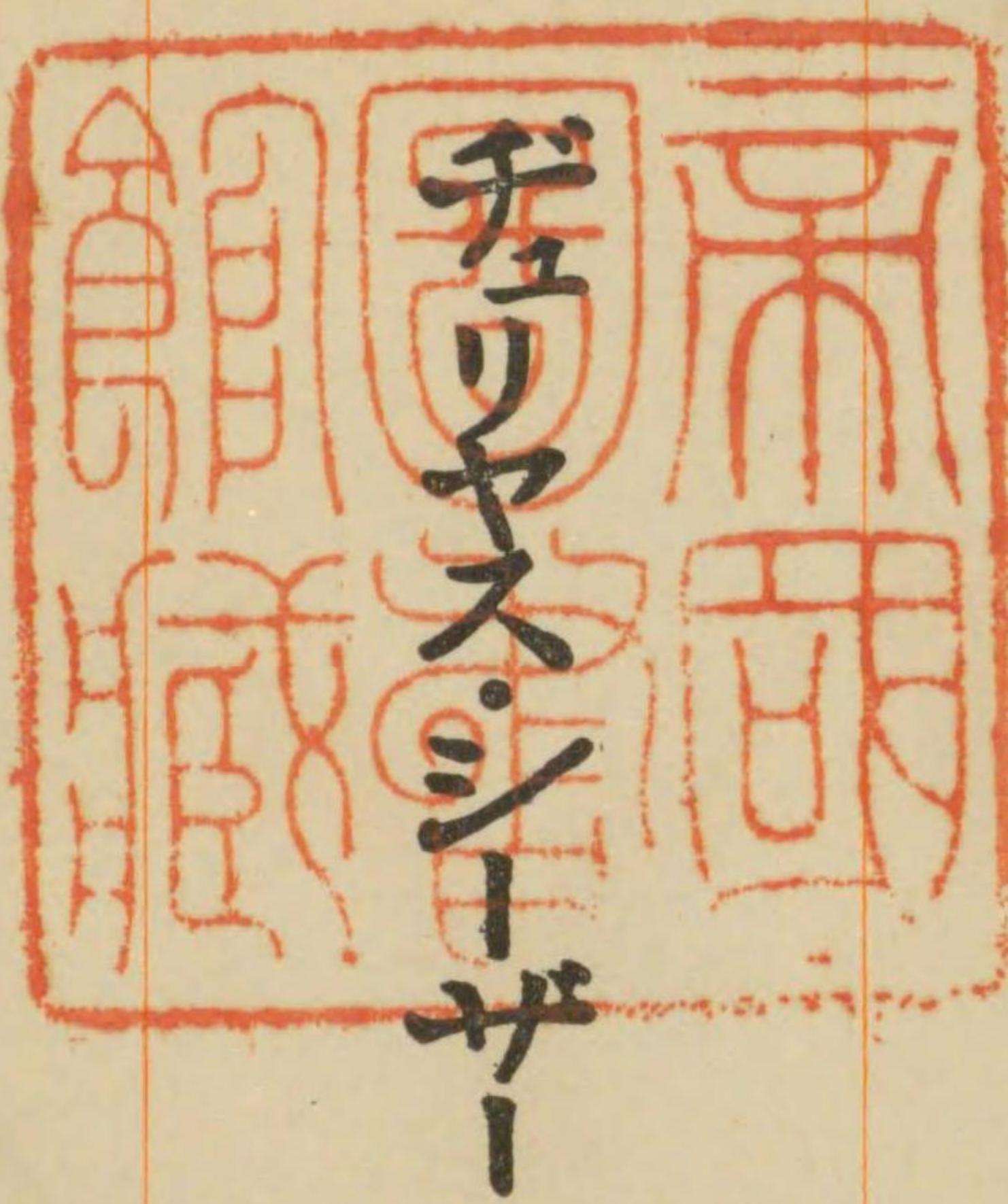


531

112



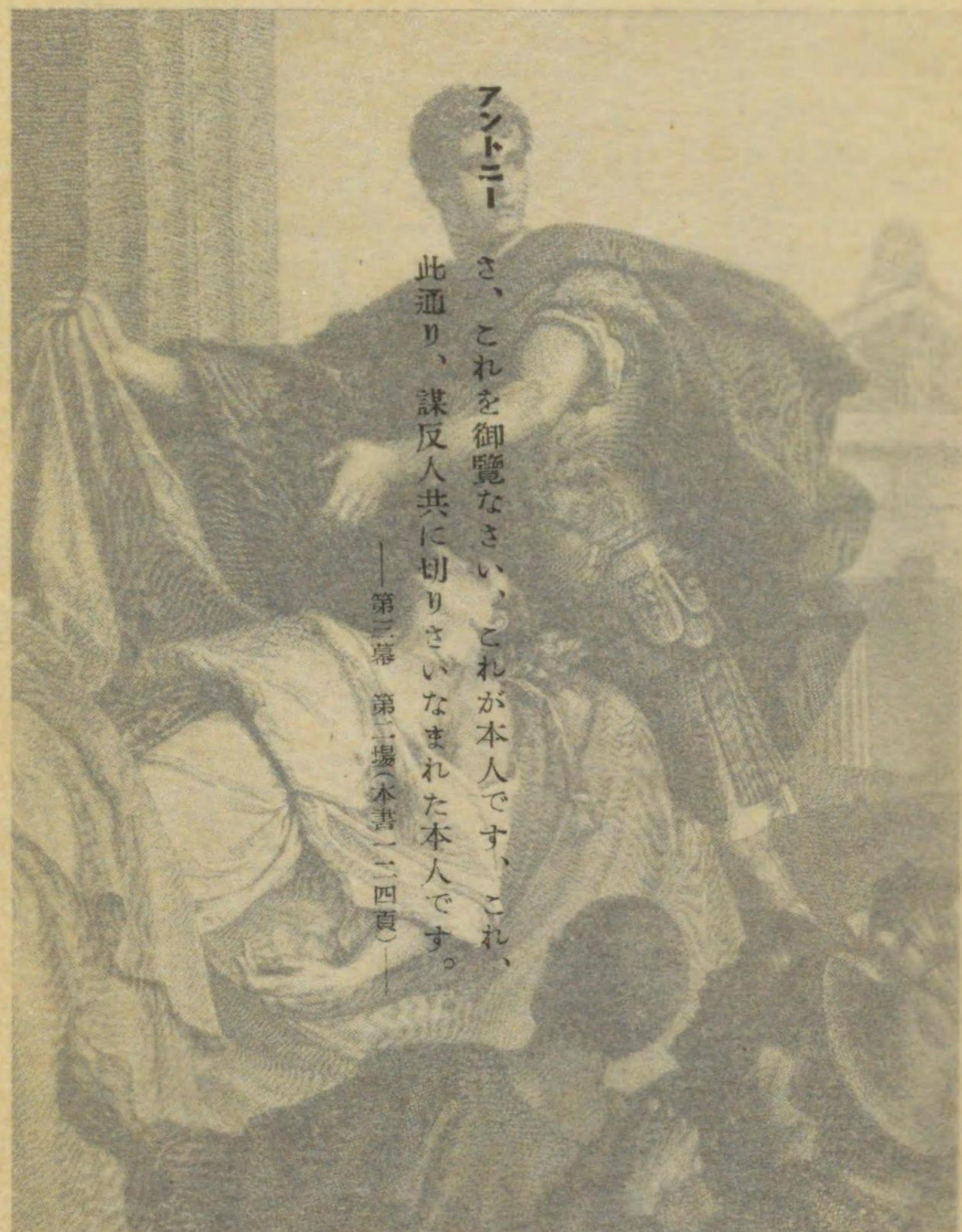
坪内逍遙譯



（新修
シエークスピア
全集 第二十六卷）



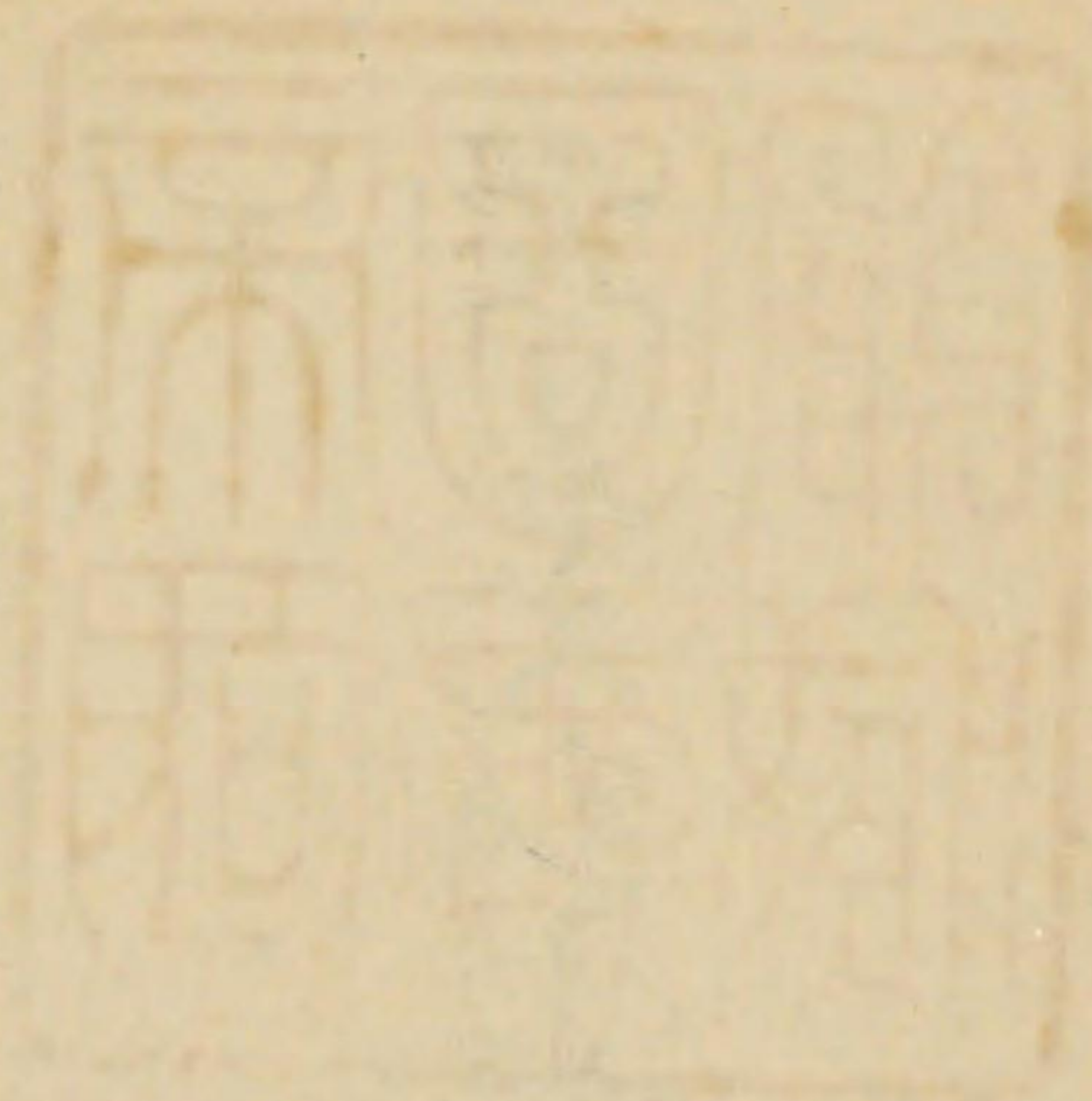
中央公論社版



アントニー

さ、これを御覽なさい、これが本人です、これ、
此通り、謀反人共に切りさいなまれた本人です。

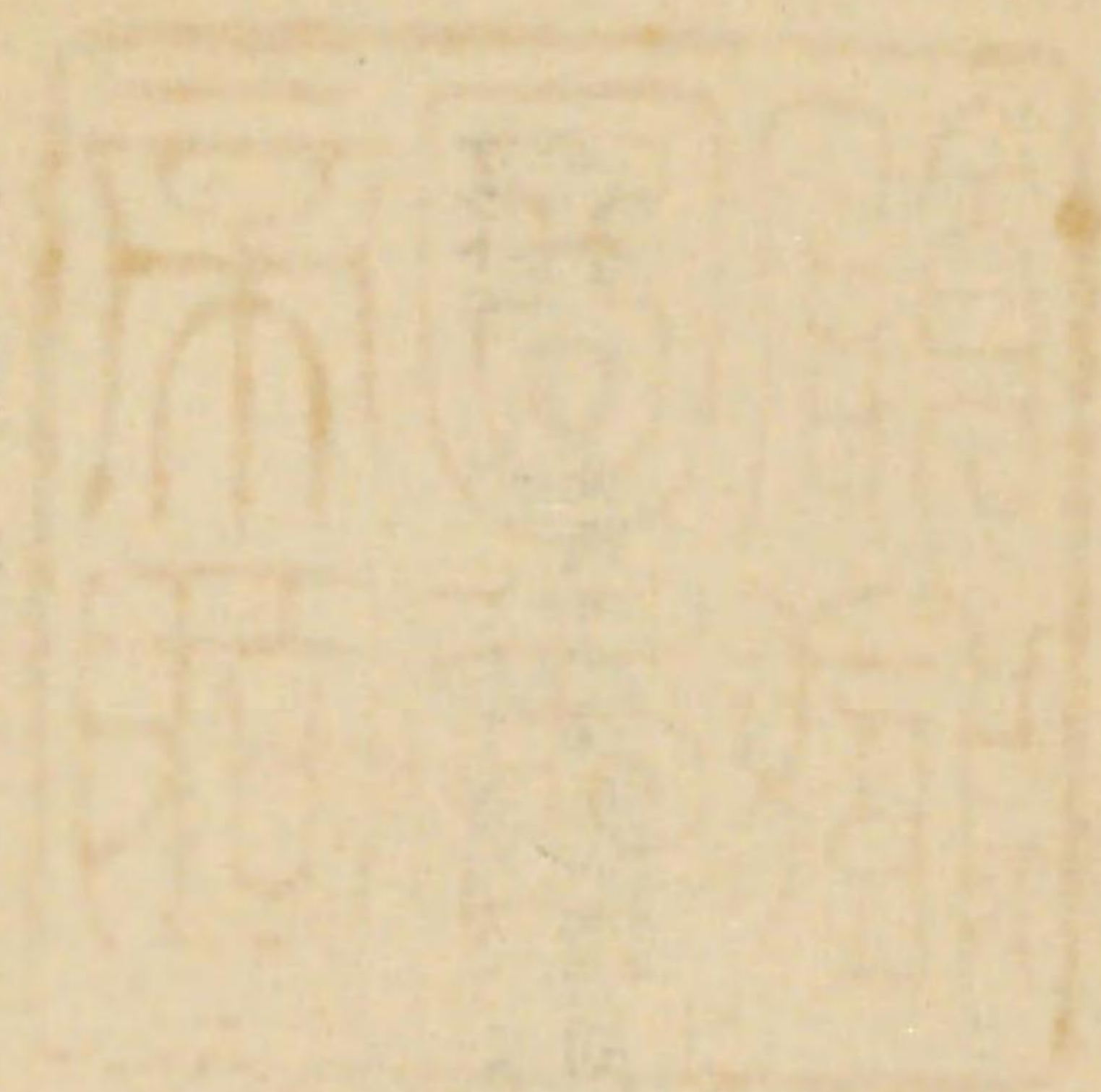
——第三幕 第二場(本書一二四頁)——

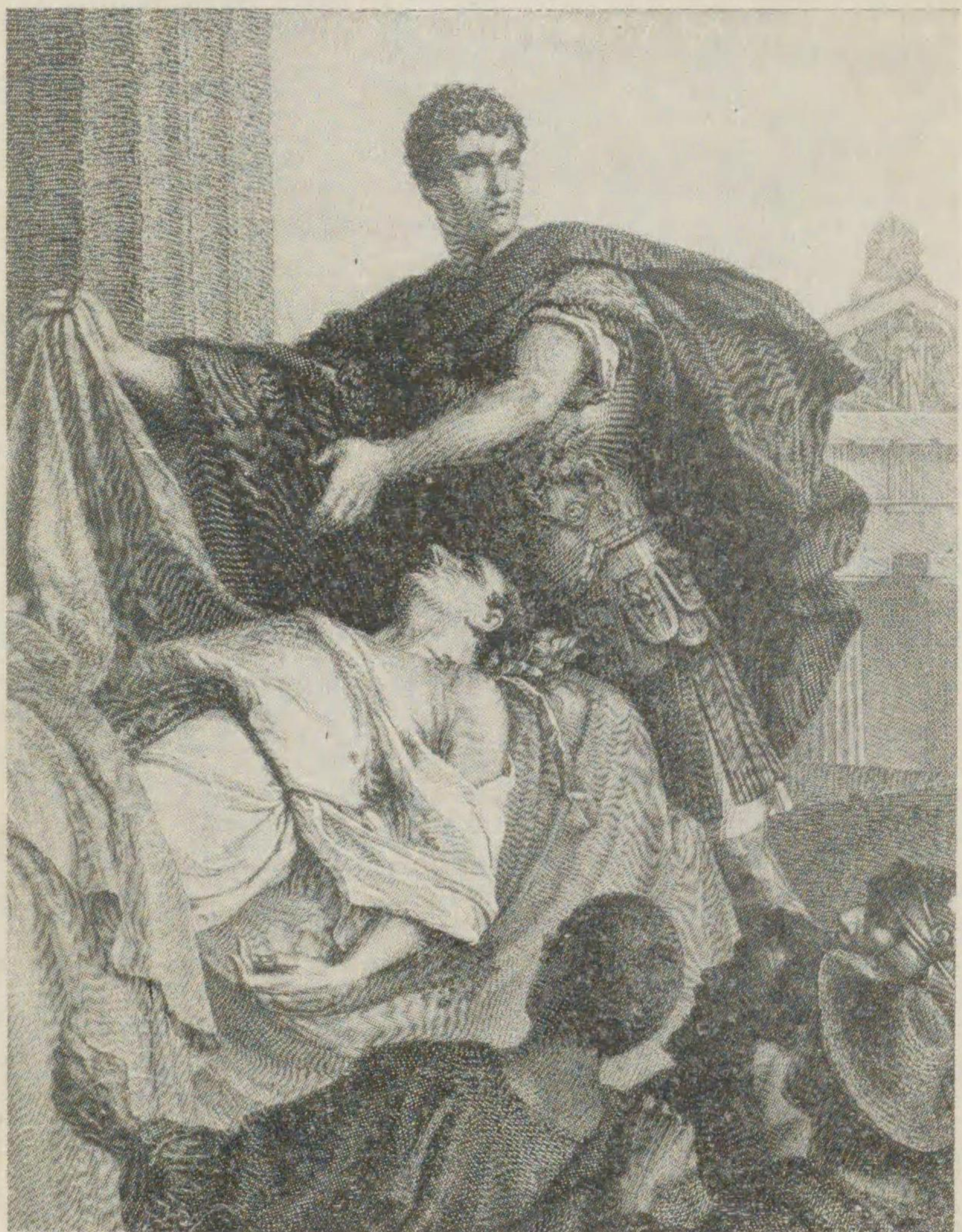


アントニー

さ、これを御覽なさい、これが本人です、これ、
此通り、謀反人共に切りさいなまれた本人です。

— 第三幕 第二場(本書一二四頁) —





— 第三卷 第二編 (本書一二四頁) —

スニニニ
此画は、猶又人共ニ見れり、其を以て本人トす。
ち、其を時覽する、其亦本人トす、此亦、

緒言

書かれた年代

「ヂュリヤス・シーザー」が初めて版になったのは作者の死後で、所謂「第一フォリオ」に載せられたのがそれである。「ハムレット」などは、其第一稿は、ほぼ此作と同じ比に書かれたであらうとさへ思はれてゐるのに、作者の生存中に四つ折版を五種までも出してゐるが、これには只一種のクォートも出てゐた形跡がない。のみならず、其書きおろされた年月もはっきりしない。十八世紀のイギリスの沙翁學者の輿論は、一六〇三年ごろに書かれたものだらうといふ説に傾いてゐたが、昨今では、種種の證據から推して、早くは一五九九年、晩くとも一六〇一年の作だらうといふ推斷

に歸著しようとしてゐる。其一證として引抄されるのは、ジョン・ウィーヴーの『トプ・マークス死者の鏡』(一六〇一年版)中の左の句である。

The Many-headed multitude were drawn

By Brutus' speech, that Caesar was ambitious.

When eloquent Mark Antony had shown

His virtues, who but Brutus then was Vicious?

これは、たしかに此作中のアントニーの演説を指したものであるらしいとすると、それが上演されたのは、一五九九年か、晩くも一六〇〇年であつたらう、すなはち、作者が三十五六歳ごろの作といふことになる。

勿論、此作以前にも、シーザーの死を主題とした劇は幾種もあつたと傳へられてゐる。其一はラテン語で書かれた *Epilogus Caesaris Interfecti* (一五八二年)で、これはオクスフォードで上演されたとある。「ハムレット」中で、ポローニヤスが、大學で

演じて、ブルータスに殺された、云々といつてゐるのは、此作の事であるらしい。

其前、一五七八年にも、フランスのパリーで、同じくシーザーに関する劇が出版され、尙ほ其外に、スターリング伯の作で、*Tragedie of Julius Caesar* と題したものがあつたといふ。それは沙翁のよりも慥かに古いものと信ぜられてゐるが、其出版は一六〇七年であつた。

いづれも沙翁のとは全然別種の物であつて、史實に因む筋の類似以外、同等の交渉もないといふ事である。

材 源

沙翁の此作の材源は、主として、といふよりも、寧ろ専らブルタークの『ライイッ英雄列傳』であつた、といつていい。大シーザーの性格描寫だけは、ブルータスを義人化、英雄化して、觀者の同情を集中させる爲、といふやうな脚色上の都合もあつたらしく、多少非正史的に凡人化してあるとも見えるが、其他の人物のは、ほぼブルタークが傳

へた其儘であり、序幕から大詰までの事件の推移も——其枝葉の事情までも——殆ど『列傳』に見えてゐる通りである。感情家であるだけに、嫉妬深い、激し易い、併し頗る策略に長じたキャシヤス、高潔で、廉直で、冷靜な學者肌で、一代の名望家であるブルータス、放逸で、多感で、多能で、雄辯家で、野心家で、詩的情熱をも持つてゐるアントニーなども、勿論、血や肉は沙翁が附加したのだが、其骨髄は悉くブルタークが與へてゐる。例へば、公會場に於ける有名な演説の如きも、『列傳』では、只ブルータスが、其名望の故に、騷擾する公衆を一演説で以て鎮撫したとあるだけで、どんな風に演説したかといふ事は書いてない。アントニーのとても、シーザーの舊功を讚美したとか、眞先きにシーザーの遺言狀を讀んで聞かせたとか、上被を取りのけて、血に染みた傷だらけのシーザーの死屍を群衆に見せたとか、それによって彼等の同情を喚起し、憤激せしめた結果、彼等は陰謀黨を虐殺者と連呼し、「殺せ〜！」と叫んで、即座にシーザーを火葬すると同時に、手々に其燃え木を振りかざしつゝ、

徒黨の家々に放火したとあるばかりで、あの有名な、反語的な、擒縱自在な雄辯の内容らしいものゝ暗示は兎の毛ほどもない。散文的な、至って簡勁な一見、論理的で、其實、甚だアン・コンギンシンダな、獨り合點のブルータスの學究演説とアントニーの詩的な、上品な、併しながら巧妙なデマゴグ式のそれとの寫し別けの如きは、一にシェークスピヤの創作なのである。前者が散文で書かれてあり、後者が始めから終りまで韻語である點に注意されたい。

右の演説の場は書きおろしの當時にも大好評であつたといふが、今日も尙ほ喜んで讀まれもすれば、演劇としても歓迎される。特に作者の力が此一段に籠められてゐるためであらう。

さういふわけで、此演説だけは、血や肉ばかりでなく、骨組までが沙翁の物だといつていゝが、其他は、時としては、血や肉までも、或程度まで、ブルタークが提供してゐるとさへ言へる。例へば、「妻は夫の祕密を聽き得る権利がある筈だ」とブルー

タスに抗議をするケートーの女のポーシャの語は、簡約ながら、ほゞ此作通りがブルータスの傳の中にある。或ひは、シーザーの横死の前夜に種々の凶兆があり、地妖、天變が起つたといふ事、キャルパーニヤがシーザーの殺される夢を見て、憂慮し、彼れが外出を抑留する事、そこへデイーシヤス・ブルータスが迎へに来て、其夢の解釋を説破する事等も、同じく『列傳』に詳かである。或ひは、シーザーに危険を豫告しようとする卜者や、アーチミドラスや、事變を豫想して焦燥し煩悶するポーシャや、キャピトル（大神殿）に於けるシーザーやポーピリヤス・リーナや陰謀黨全部の行動等も同断である。前記演説の場の如きも、筋の運びだけは、大體、正史通り。遺言狀の公讀が、ブルータクでは、例の演説以前となつてゐるぐらゐの差である。詩人シンナの災難さへも『列傳』中の事蹟なのである。いや、三議政の議決の要旨、キャシヤスとブルータスの激論、シーザーの靈の出現、フィリップパイに於ける最後の決戦の段取までが、殆どさながらに史實を辿つてゐると言つて過言でない。只ポー

シャが自殺したのは、ブルータスの戦死後であるのに、それを其前にしたのなどは、専ら劇としての効果の爲であるらしい。

此劇の人氣及び特質

此作は、シェークスピア劇中の最も有名なもの、一つでもあり、不思議に人氣があつて、作者死後三百餘年の今日まで、内外に歡迎されてはゐるが、沙翁の作としても、詩劇としても、決して上乘のものではない。先づ、筋が、上半分と下半分とで、二断されてゐる、と言はないまでも、腰折れになつてゐる。上半分では、シーザーが主人公であるらしく見え、下半分へ掛けては、ブルータスとしか見えない。それから、戀愛は劇には缺くべからざる物とさへ言ふのに、女性に關する興味が思ひ切つて稀薄である。（もつとも、同じ例が「コリオレーナス」にも、「アセンズのタイムン」にもあるが）。それから、第四幕までの脚色は、さすがに緊張してゐるが、第五幕はダレ氣味になつてゐる。少くも、さういふやうな瑕疵がある。それにも拘らず、多數者

に喜ばれるのは何故か？ 按ふに、一つは、劇中のキャシャスの言つてゐる如く、爾後幾百年の後までも、「未だ生れない國土に於て、未だ知られない國語を以て」尙ほ「幾たびも活劇化され、上演」さるべき專制對自由といふ政治的階級闘争のイデオロギーだの、國家の爲、名譽の爲に壯烈な獻身を敢てするローマだましひの活躍だの、又、此作が、一面に於て、いつの世にも多少の同感を博し得べき因果應報を暗示する復讐劇であることだが、讀者、觀者、殊に、男性の感興を惹く爲でもあらう。二つには、情癡的な事項が絶無なため、教科書用乃至學校劇の臺本として恰好な爲であらう。それに、沙翁の作中では、比較的にも最も讀み易い作でもある。「ロミオとジュリエット」や「戀の骨折損」等に見るやうな過巧な、牽強な、煩縷な比喻も至つて少く、筋が嚴肅なものだけに、語呂や地口も數へる程しかない。註釋書はクラレンドン版とロルフの、外知らなかった私が、明治の十七年にさへ、變な義譯ながら、ともかくも全曲を譯し得たのに依つても、難解でないことが解る。いや、私よりも一年前

に、河島敬藏氏の全譯「ジュリアス・シーザーの劇」(後に羅馬盛衰鑑と改題)があつたのであるが、さう早く全譯が、ともかくも、二種までも出てゐた割には、其後の完譯の數は尠い。戸澤、淺野二氏共譯の「シーザー」の出たのは明治四十年、早大出版部から私の新譯「シーザー」を出したのが大正二年、横山有策氏が新たに譯して『世界文學全集』に收めたのが昭和四年、澤村寅二郎氏の譯が本年の一月。これら以外にも、或一幕、或幾場かだけを講義風に譯したものは二三種はあつたやうだが、くはしいことは、市河博士、山口武美氏共編の「日本シェイクスピア書誌」(『英語研究』所載)に譲つて、こゝには省く。

昭和八年七月十八日

舊譯の修訂を終はるに際して

道 遙

【備考】

本書の口繪は、Shakespeare, Scenes and Characters, with explanatory text, by E. Dowden. Macmillan and Co. London, 1876. より引用。

登場人名

ヂュリヤス・シーザー。

オクテールギヤス・シーザー、

マーカス・アントーニヤス、(或ひはマーク・アントニー)

マーカスイーミリヤス・レピダス、

シセロー、

パブリヤス、

ポーピリヤス・リーナ、

ケーヤス・キャシヤス、

マーカス・ブルータス、

キャスカ、

元老議官。

シーザー死後の三執
政官。

トリポーニヤス、

デユリヤス・シーザーを除かんとする徒黨。

ケーヤス・ライゲリヤス、

デーシヤス・ブルータス、

メテラス・シンパー、

シンナ、

フレーギヤス、

平民保護官。

マラ・ス、

アーチミドラス、ナイドスのソフィスト一學究。

一豫言者。

シンナ、詩人。

他の一詩人。

リユーシリヤス、

チ、ニヤス、

メッセーラ、

若ケートー、

ブーラムニヤス、

ブロー、

クライタス、

クローディヤス、

ストレートー、

リユーシヤス、

ダーデーニヤス、

ピンダラス、キャシヤスの従者。

キヤルパーニヤ、シーザーの妻。

ブルータス、キャシヤスの黨人。

ブルータスの従者。

ポーシャ、ブルータスの妻。

元老議官等、市民等、護衛等、侍者等、其他。

場所 大概はローマ市。後にはサーデイス及びフィリップイ附近。

(人名の發音は茲に記するものを以て、最も正しきに近きものとす。然れども譯詞との調和上、本文にては、わざと改めおきたる箇所もあり。例へば、「キヤ」と發音すべきものを悉く「カ」としたるなど。)

ヂリヤス・シーザ

第一幕

第一場

ローマ。街頭。

フレীগヤス、マラ、ス及び多勢の平民出る。

さア、歸れ、懶惰漢め、家へ歸れ。やい、今日は休業日

か? えッ? 職人の癖に、知らんか? 仕事日にや、職業の目標

を附けんで、出歩いぢやならん筈だぞ。汝の商賣は何だ?

市民一 へい、あの、大工で。

マラ、 革の前垂や定規は何處にある? 餘所行服を被て何をしてゐる? :

市民二

：・おい、足下の商賣は何だ？
正直、品のえい職人衆に比べましたらなア、高が補綴屋でもありませうけどもな。

マラ、

いや、商賣は何だと訊くんだ？ 眞直に返答せい。

市民二

さア、其商賣をな、予は日頃から悪いことぢやとは思うてをりませんのぢや。底が悪けりや直しますんでなア。

マラ、

其處とは何處だ？ え、此唐變木めが。汝の商賣を訊いてゐるのだ？

市民二

あゝ、もし、そんなに機嫌をお損じなさいますな、貴下方の損じを直すのが商賣ぢやけどもな。

マラ、

何だ？ 直す、見事、乃公を！
いゝえなア、貴下のお靴をな。

市民二

フレ一

ぢや、靴直しか、汝は？

市民二

はい、全くのところ、錐一本が予の資産でござります。外の商人衆と張合もしませねば、どこの女子と突合もしませぬ。ぎりぎりのところ、古靴の外科醫者でござります。どんな靴の難病でも、

フレ一

すぐ治して御覽に入れます。凡そ柔革を踏まっしゃりますお歴々で、御用を仰せつけられん方はござりません。

市民二

だが、何故今日店を空けるんだ？ 何だつて此手合をあっちこちと引廻してゐるんだ？

市民二

正直、歩かせりや靴が傷みますから、手前の商賣が繁昌しまする。

マラ、

いや、全くのところ、シーザーさまのお目出たい勝軍のお祝に、仕事を休んだのでござります。

市民二

何故祝ふんだ？ 何が目出たいんだ？ 如何いふ勝軍だと思つてゐ

るんだ？ シーザーの戦車の鎖に敵國の名譽の捕虜でも繋がれて
 来るのか？ ……お、木とも石とも無感覺とも言ひやうのない無
 情酷薄な町人めら！ ポンピーどのを知らん汝らか？ 汝らは、大
 ポンピーどのがローマへ凱旋するのを待ち構へて、幾たびも石
 垣や城壁や塔や窓や煙突の頂上へまでも攀登つたぞよ、腕には幼兒
 を引抱へて、氣長にも一日がかりで。さうして其戦車が微とでも
 見えて来ると、汝らは何時も一齊に大喝采をしをつたので、夕
 イバー河の凹んだ岸が其爲に反響して、河底が震動した位のもの
 だ！ 然るに、今となって、其様に晴衣を被飾り、職業までも休ん
 で、ポンピーどの、血族を滅して凱旋する其男の馬前に花を撒くと
 は何だ？ 去つちまへ！ 家へ駈戻つて、土下座をして、神さまに詫
 びろ、さうでない、今に天罰の疫病が恩を知らぬ汝らの頭の上へ

降つて来るぞ。

フリー
 さア、お前たち、早く歸つて、此罪ほろぼしに同輩の職人どもを
 驅集めて、タイバー河へ伴れて行つて、懺悔の涙を河へ泣き込め、
 それが爲に河の水が増えて、波が岸を越すほどまでに。 ……

平民等みなく入る。

下等な奴等でも、言ひ聞かせりや、流石に感動しますわい。悪かつ
 たと思ふと見えて、何にも言はんで去つちまった。 ……君は、其方の
 方を、議事堂の方へ見廻つて下さい。予は此方を見廻らう。王冠
 などを被せた像があつたら、引剝いで下さい。

マラ、
 フレー
 引剝いても可からうかね？ 今日ハリユーパーカルの祭日だが。
 かまはない。シーザーの爲にする飾物は、決して容赦すべきでな
 い。見附次第、予は平民どもを追拂ひませう、君も、彼奴等が集つ

てゐたら、さうして下さい。シーザーの翼の小羽根が段々と殖えるのを、今の中に抜いてしまへば、彼奴高翔が出来なくなるが、さうでない、目も達かんやうな處まで舞上るだらう。すると、我々は目下に見られて、始終戦々してゐねばならぬ。

ふたり 二人とも入る。

第二場 同處。大通り。

音楽につれて行列を出て来る、眞先にシーザー、ついで競走の身支度をしてゐるアントニー（アントーニヤス）、カルパーニヤ、ポーシヤ、デイーシヤス、シセロー、ブルータス、カシヤス及びカスカ。其後より市民大勢其中にまじりて一人の豫言者。

シーザ カルパーニヤ！

カスカ シック！シーザーのお發言だ。

音楽止む。

シーザ カルパーニヤ！

カルバ はア、お前に。

シーザ アントーニヤスの直前に立っておいでなさい、彼れが競走を始めたら。……アントーニヤス！

アント シーザー閣下。

シーザ アントーニヤス、君が駈出した際に、忘れないでカルパーニヤに觸つてやつて下さい。老人連の話によると、子の無い女も、此神聖な競走で、男子に觸つて貰ふと、石婦の呪をまぬかれるといふから。アント 心得ました。シーザーが「斯う爲い」とお命じある以上、實行は

必然ひつぜんでございます。

シーザ はじめい。決して式しきを略はぶくな。

おんがく音楽はじまる。

豫言 シーザー！

シーザ や！呼ぶのは誰たれだ？

カスカ 物音ものおとをやめろ。しっく、もう一度、静しづかにく！

おんがくや音楽止む。

シーザ 群衆ぐんしゅう中で俺おれを呼ぶのは誰たれだ？ 樂がくの音ねよりも甲走かんはしった聲こゑで「シー

ザー！」と呼んだ。返辭へんじをしろ、シーザーは耳みみを向けてゐるぞ。

豫言 三月ごわつの十五日にちを御警誠ごようじんなさい。

シーザ あれは何者なにものだ？

ブルー 豫言者よげんじやらしい者が三月ごわつの十五日にちを御警誠ごようじんなさいと申まうします。

シーザ こゝへ伴つれて來きなさい、其奴そいつの面かほを見みよう。

カスカ やい、そこから出でて來きて、シーザーどのお見上みあげ申まうせ。

よげんじやぐんしゅうちゆう豫言者群衆中から前へ出る。

シーザ 俺おれに何を言いはうといふのだ？ もう一度言いへ。

豫言 三月ごわつの十五日にちを御警誠ごようじんなさい。

シーザ こいつは空想家くうさうかだ。うっちゃつておいて、さ、さ。

てうセネット調てうの喇叭らっぱと共に一同入どうはいる。ブルーダスとカシヤス

のこだけ残る。

カシヤ 競走かけつくらの式しきを御覽ごらんにならんですか？

ブルー 見みません。

カシヤ さうおつしやらんで、御覽ごらんなさいよ。

ブルー 予わたしは競戲事あそびごとを好きすきません、アントニーのやうなあゝいふ快活くわいくわつな氣分きぶん

が乏しいんですから。カシヤス、どうか、予にはお介意なく。予はこれでお別れします。

カシヤ

ブルータス、つい近頃心附いた事だが、貴下の予を見る目附に以前のやうな柔和みもなけりやア愛情も見えない。貴下は信友に對して、妙に取方附けて、よそくしうばかり振舞うてござるやうに思ふ。

ブルー

カシヤス、誤解をしちやいけない。或ひは一皮かぶったやうな顔附をしてゐたことがあつたかも知れないが、それは心配顔を只一へに自分へのみ見せようとしたからです。(他人に見せたくなかつたからだ)。予は近來兩立させがたい二つの情の爲に苦しんでゐる、それで素振が變つて見えたでもあらう、が、それが爲に親友に……カシヤス、貴下が其一人だが……貴下なんぞに心配を掛けたくない。或ひは

カシヤ

無愛想な振舞をしたかも知れないが、それは全くブルータスの心中に苦しい戦争がある爲で、他に理由があるなどと思つて下さるな。

ブルー

ぢや予は大變に貴下の感情を誤解してゐた、それが爲に、大切な、是非話さねばならんことを今日まで此胸に藏めてゐた。ねえ、ブルータス君、貴下は自分の目で自分の顔が見えますか？

カシヤ

見えない。目は何物かの反射を借りないぢや其れ自身を見ることが出来ない。

ブルー

其通り。ブルータス、それが甚だ歎かましいのです、貴下が自分の隠れた價値を、自分の影を、おのが目に見せるだけの鏡を有つておいでなさらないので歎かましいのです。わたしは……あの神のやうなシーザーだけは別だが……現代の鞭に壓へ附けられて呻吟いてゐるローマの諸名士が、貴下の噂をしては、「あゝ、ブル

「タスどのに目があつたら」と残念がつてゐるのを聞きました。
ブルー カシヤス、貴下は予を如何いふ危険へ誘はうとするのだ、予が有つてゐもしないものを有つてどもゐるやうに思はせて？

カシヤ

ですから、ブルータス君、まアお聴きなさい、貴下は自分で自分を照らして見る事は出来ない、だから、わたしが鏡になつて、貴下の心附いてゐない貴下みづからを貴下に見せようとするのです。ブルータス君、予を危険がるには及びません。予が平生戯談口を吐いたり、出逢ひ放題に莫逆を誓つたり、前では追従を言つて抱擁して、蔭で悪口したり、宴席などで、そこに居る限りの者を信友にしてのけるやうな男でもあつたら、危険ともお思ひなさるが可い。

喇叭の聲が盛んに起つて喝采する聲が聞える。

ブルー

や、あの喝采は？ 若しや民衆がシーザーを王に選んだんぢやない

か知らん。

カシヤ

では、貴下はそれを心配なさるね？ すると、シーザーを王にするのは貴下の欲しない所だと考へていゝわけですね。

ブルー

欲しないが、予はシーザーを愛してゐる。……が、何故貴下は斯うして何時までも予を引留めるのです？ 何を予に話さうといふのです？ 若しそれが國家全般の利福に關する事なら、一眼には正義を、一眼には死をお見せなさい、予は双方を無差別に見よう。神も照覽なされ、予は死を恐れるよりも寧ろ正義を重んじる。(大義名分の爲になら決して一命を惜まない。)

カシヤ

ブルータス、貴下にさういふ節操の有ることは、予は善く知つてゐる、貴下の顔を知つてゐる程に。ところで、予の言はうとするのは、其正義といふことなんだ。貴下や他の人達は目下の生活を如

何思つて居られるか知らんが、少くも予としては、自分と同様の人間なんかを怖れて生きてる位なら、死んだ方が優だと思ふ。予はシーザー同様に自由の國民に生れたんだ。貴下ととてもだ。我々とても彼れ同様に飲食もすりや冬の寒さを耐へもする。現に、嘗て風のすさまじく吹荒れて、タイパー河の奔流が岸に激する或冬の日、シーザーが予に言ふには「どうだ、カシヤス、此怒濤の中へ予と一しよに飛込んで對岸へ泳ぎ抜く勇氣があるか」と。予は、それを聞くや否や、衣類を着たまゝ飛込んで、さア尾いて來いと言つたれば、奴も同じく飛込んだ。轟き渡る急流を、何、これ式にと血氣の腕節、拔手を切つて、掻き分け、蹴分け、一文字、まだ對岸へは着かんうちに、もうシーザーめは「助けてくれ、カシヤス、沈む沈む」とわめきをつた。わが太祖のイーニヤスが、トロイ落城の其

砌、火焰の中から老父アンカイシーズを肩に掛けて救ひ出した時の様に、自分はタイパーの波間から、疲れ果てたシーザーをば救ひました。然るに、今、其男は活神と崇められ、カシヤスはみじめな只の人間、若しシーザーめが頤を一つしゃくりでもすれば、此腰を屈指ねばならん。……スペインに居つた頃、彼奴ア瘡をわづらつて、發作が始まると、おそろしく慄へをつた、現人神がたく、慄へて、臆病な唇は眞蒼になり、今日一睨すれば、世界を戦かす其眼も光を失ひ、うん／＼と唸きをりましたぞよ。いや、全くだ、今日口を開けば全ローマ人に耳を聳てさせ、片言隻句をも其手帳に書留さする其舌が「あゝ苦しい！ チ、ニヤス、何か、飲むものを／＼」と病んでゐる小娘のやうに叫きましたぞよ。あゝ、實に奇怪千萬、あんな弱蟲めが此大世界の先登者となつて、只獨り勝利の名譽をほし

いまゝにしをるとは！

喝采の聲。喇叭の聲。

ブルー

また大勢でわめいてゐる！ 何かシーザーへ重ねぐ、榮譽を獻げようとするものがあるのであらう、それを喝采するのに相違ない。ねえ、足下、彼奴はまるで巨像のやうに世界を狭しと踏みはだかつて居るのに、我々小人どもは、其巨きな脚の間に踞踏つて、みじめな墓場を捜さうと覗いてゐる。ねえ、ブルータス、人間が時としては其運命を司ることがあるよ。我々が斯な劣者となつてゐるのは、罪が運星にあるんぢやなくつて、我々の心にあるんだ。ブルータスとシーザー。其「シーザー」といふ名前に何が有る？ 何故其名前が貴下の名前よりも大層らしく口にされるか？ 書並べて見ても優劣はない、呼んで見ても呼聲に上下は無い。衡器に懸けて

カシヤ

も輕重は無く、呪文に使へば「ブルータス」も「シーザー」同様、精靈を禱り出す役に立つに相違ない。一體、全體、シーザーめは、そもく、何を食ひをつて、あんなに偉くなりをつたか？ あゝ、現代よ、汝は大恥を搔いてゐるんだ！ ローマよ、汝は英邁果敢の血統を失つてしまつたんだぞ！ 大洪水このかた、英雄は只一人しか無かつたといふやうな時代があつたか？ ローマの過去を語るに當つて、此廣大な城壁が只或一人をのみ圍繞したなぞと假にも言ひ得た者があるか？ ローマは大共和國だ、たった一人だけを容るになら、成程、へッ、大でもあらうかい！ おゝ！ 貴下も予も豫て親共から聞いてゐた筈だ、昔ブルータスといふ人がゐて、王を戴く位なら、悪魔をローマに君臨させたはうが優だといつたと。 貴下が予を愛してゐて下さることは、毫も疑はん、又、何を予にさ

ブルー

せようとしてゐなされるかをも略察してゐる。それにつき、又現下の形勢についての予の考へは、後日改めて話しませう。今日は、お願ひだ、これだけにしておいて下さい。貴下の言はれた事を熟考もしようし、更に言はうとなされる事をも猶とくと聴きませう、さういふ大事をば聴いたり答へたりするに都合の好い時を求めて。それまでのところ、此一言を含蓄しておいて下さい。ブルータスは、現代が我々に課さうとするこんな酷い条件の下でローマ市民となつてゐるよりは、只の一村男となつたはうが優だと思ふと。予の薄弱な語がブルータスに衝突つて、それほどの火花をでも發せしめたかと思ふと、満足です。

カシヤ

ブルー

カシヤ

競戯が了つたから、シーザーが歸つて來ますよ。

彼等がこゝを通る時分に、カスカの袖を引いて御覽なさい、すれば

彼男、例の皮肉な口吻で、今日の重要な事件を話しませう。

シーザー及び其陪従者等出る。

ブルー さうしませう。……が、カシヤス、御覽なさい、シーザーの額は例の癩癩で赤くなつてをり、他の者は皆な叱られた陪従といふ顔をしてゐる。カルパーニヤの頬は蒼ざめ、シセローの目は猿鼠の目のやうに眞赤だ、嘗て議事堂で元老等に反對演説をされた時に、ちようどあんな凄しい目附をしたつげが。

カシヤ

シーザ

アント

シーザ

カスカに訊きや、仔細がわかるでせう。

アントーニヤス！

シーザー？

予は肥つた者ばかりを左右に置きたい、滑ツこい頭附の（髪を綺麗に撫付けてゐる）、夜も善く眠るやうな奴をなう。あそこにゐるカシ

ヤスなどは、瘦せて、空腹さうな顔をしてゐる、考へてばかりゐる。あゝいふ男は危険だ。

アント

御心配なさるな、シーザー、危険な男ぢやありません。立派な善い性質のローマ人です。

シーザ

もつと肥つてゐりや安心だが！ いや、心配なぞはせんよ。が、假に此シーザーが心配したり恐れたりすることがあるとすれば、眞先に、彼瘦せたカシヤスを遠ざけるだらう。讀書家でもあれば、觀察にも長じてゐる、行爲の最底までも見透す。演戲などは好かん、お前のやうに。音楽も好かん。笑ふことも稀だ、たまに笑へア自ら嘲るやうに笑ふ、かりにも笑つたおのが心をさげすんでゐるかのやうに。あゝいふ手合は自分以上の者を見ると不安を感じる、だから危険だ。だが、こりや恐るべき物は何かといふことを話したま

でだ、予が恐れてるのぢやない、予はいつだってシーザーだからなう。右の方へ来てくれ、此方の耳は聞えん。え、お前は彼男を如何思ふ、正直に話してくれ。

セネット 調の喇叭。シーザー及び其陪従者一同入る。カス
カ後に残る。

カスカ

貴下は予の袖を引いたね、何か用がありますか？

ブルー

あります。如何な事件がありましたね今日？ シーザーが不快げな貌をしてゐましたが。

カスカ

おや、貴下はシーザーと一しよにゐなすつたんぢやないか？

ブルー

ゐたんなら、君に訊ねる必要はない。

カスカ

何ね、王冠をシーザーに獻げた者があつたんですよ。ところが、其獻げた王冠を、大將、手の背で以て、如是鹽梅に排斥しました。

すると、公衆は大喝采。

ブルー あの一二度目の騒ぎは何でした？

カスカ さア、それも同じくでさ。

カシヤ 三度喝采しましたぜ。一番終のは何の爲でした？

カスカ さア、それも同じく。

ブルー ぢや、三度王冠を獻げたんですか？

カスカ いかにも、其通り。ところで、彼れは三度とも排斥しました、後ほど手柔かにね。すると、其排斥するたびに、正直者の先生たち喝采しました。

カシヤ だれが王冠を獻げたんです？

カスカ はて、アントニーでさ。

ブルー カスカ君、その時の模様を話して下さい。

カスカ

それを話すくらゐなら、いつそ縊殺されつちまつたはうがい。全く馬鹿々々しい。よくは見ても居ませなんだがね。マーク・アントニーが王冠を獻げるのを見ましたがね、王冠とは名ばかり、例の月桂樹を縮ねた奴さ。すると、今も言った通り、奴は直ぐそれを排斥しました、が、わたしの察しぢや、いかにも欲しさうだった。と、アントニーは一二度目それを彼れに獻げた。と、又排斥したが、察する所、奴それが引摺みたくてならなかつたらしい。すると、アントニーが三度それを彼れに獻げた、と、彼れは三度それを排斥した。ところで、奴がそれを辭退するたびに、愚民群は喝采した、ひゞわれた手を叩くやら、汗臭い夜帽を抛上げるやら、シーザーが王冠を辭したといつて堪らん臭い息を吐きかけて唖鳴り立てた、その爲に、シーザーは息を塞らせ、噎せかへって、とう／＼卒

倒してしまつたんです。をかしくツてたまらなんだが、予は能う笑はなんだ、うっかり口を開けや悪い空気が入つて来るからね。

ま、ちよいと。え？ シーザーが卒倒しましたか？

カシヤ 公會場の真中で卒倒しました、口から泡を吹いて、全く無言で。

ブルー ありさうなこと。癲癇は彼男の持病に有る。

カシヤ いや、シーザーには無い、が、貴下や予やカスカ君には顛倒病とい

ふ持病がある。

カスカ そりやどういふ意味だか知らんが、シーザーの卒倒したのは事實で

すよ。寄集つてた檻褸共は、まるで劇場で俳優を扱ふやうに、シ

ーザーの爲る事が奴等の氣に入りや手を叩く、氣に入らねば罵る、

こりや全く偽の無い話です。

ブルー 正氣に返つた時、シーザーは何といひました？

カスカ さア、卒倒する前に、平民共が彼れが王冠を辭するのを喜ぶのを見

て、彼れは手づから其下被の胸元を押開けて、公衆に向つて、さア

此喉を切れと言ひましたよ。あゝ、若し予が町の職人であつて而

も奴の言葉を該時實行せなんだなら、世間の悪黨と同じに地獄へ落

ちても遺憾なしだ。そこで以て卒倒したんです。それから我に返

つていふには、若し予が何か間違つた事を爲たり言つたりしたなら、

諸君は何卒それを予の病ひだと思つてくれ、と斯う言つた。予の傍

にゐた三四人の女郎は「あらま！ お氣の毒なお方！」とわめいて、

眞底奴に同情してゐましたが、彼奴らは沙汰の限りでさ。シーザ

ーの爲に實母を突殺されてゐたつても同じやうなことを言ひかねな

い奴等だからね。

ブルー ぢや、其後で歸つて來たのですな、あんなに鬱いで？

カスカ さやう。

カシヤ シセローは何か言ひましたか？

カスカ さやう、希臘語でね。(陳奮漢語でね)。

カシヤ どんなことを？

カスカ いや、それがお話し申せたら、又とはお目にかゝりにくい。併し

解つた手合は、互ひに、やく、笑つて首を振つておましたが、予に

取つちや (諺通り) 全くの希臘語でね。それからまだお話がある。

マラ、ストフレーギヤスはシーザーの像から飾物を引剝いたとい

ふんで謹慎を申し附けられましたよ。さよなら。まだ、馬鹿な

事もあつたんだが、忘れてしまった。

カシヤ 今夜御一しよに晩食をいたしたいんですが、如何でせう？

カスカ いや、既に前約があります。

カシヤ ぢや明日の晝食はどうです？

カスカ さア、予が幸ひに生きてをり、貴下の氣も變らず、其御馳走が又食

カシヤ くに足ればね。

カシヤ けっこう。お待ち申すよ。

カスカ どうぞ。さやうなら、兩君。

カスカ入る。

ブルー 樸訥な男になつたものだ。學校に通ふ頃には機敏な方であつたが。

カシヤ いや、今でも機敏です。何か大膽な又は大きな計畫を行つた段とな

ると、表面を懶惰げに粧つてはゐるが。あの無作法な口吻が持前の

皮肉に味を付けて、奴の語を一段面白く思はせ、喜んで咀嚼させ賞

翫させます。

ブルー なるほど。今日はこれでお別れしよう。若し明日話をして下さる

やうなら、お宅へ伺はう。或ひは宅へ来て下さるなら、待つてゐませう。

カシヤ

伺ひませう。それまでに、世の中の事を考へておいて下さい。……

ブルータス入る。

はて、ブルータス、お前は高潔な人だ。併しお前の公明正大な性質も持前でない方へ捻ぢ向けられないこともない、それゆゑ君子は常に君子を友とするが當然だ。何故なら、決して誘惑されんやうな堅固な人間が何處にあらう？ シーザーは俺には辛く當るが、ブルータスをば愛してゐる、若し俺がブルータスで、ブルータスが俺であつたら、彼れは俺の氣を誘ふことは出来まい。……今夜、種々の書風で書面をしたゝめ、種々の市民からよこしたやうにつくろつて、彼れが家の窓へ抛入させておかう、ブルータスの名に對して非

常な信用を抱いてゐるやうにしたゝめた書面を。其書面にはシーザーが野心を抱いてゐる事を暗示しておかう。それでも尙シーザーの位置がゆるがぬやうなら、人力の及ばん所だ、一段の不幸を忍ぶより外は無い。

カシヤス入る。

第三場 同處 街頭。

雷鳴電光

カスカ、劍を抜き持ちて一方より、又一方よりは

シセロー出る。

シセロ

今晚は、カスカ。シーザーを送り届けましたかい？ 何故息を切つ

てゐなさるのだ？ 何故さう目を据ゑてゐなさるのだ？

カスカ

貴下は駭かんのか、釣合が狂つて地球がぐらくと動いてゐるの

に？ おゝ、シセロー！ 予は度々大あらしに逢つて、瘤々だらけの櫛の幹を怒る風の裂くのをも見たし、大海が大それた望を起して、逆巻き、怒り、泡立って、落ちかゝらうとする黒雲へ撞著らうとするのをも見た、けれども決して今夜までは、決して今日までは、火の降るあらしには出逢はなんだ。天上界に内亂でも起つたか、或ひは人間が神に對して餘り無作法なので、神が怒つて破滅を降すのか？

シセロ

カスカ

はてね、其外にもまだ、何か不思議なものを御覽じたかね？ 貴下も見知つてをられる彼役所の奴隷が、左の手をさしあげてゐましたが、それがまるで炬火二十本も合せたやうに炎々と燃えてゐました、しかも手は焼けもせず、爛れもせず。そればかりでなく、議事堂の前まで来ると、予は獅子に出逢ひました、それ以來、劍を

シセロ

カスカ

鞘に納めません。奴予をじつと睨んで、凄い貌をして行過ぎました、何の害をも加へず。それからまた、凡そ百人ほどの女どもが一團となり、眞蒼な貌して、人心地もなく怖れ、戦き、今がた全身火となつた人達が街を駆廻つてゐるのを慥かに見たと斷言しました。それから、昨日はまた、眞晝間に梟が市へ降りて、フー／＼と啼きました。斯う種々な凶い兆が一致して起るからには、「これは云々の學理に因る當然の現象だ」などと云つちやをられません。何か不祥な事が此國に起る知らせに相違ない。

成程、不思議な時節柄です。併し人は、とかく、めい／＼思ひ思ひに、事物の本來には無關係な解釋を下すものです。シーザーは明日議事堂へ来ますかい？

来ます。現に、アントニーに明日出席の事を貴下に傳へると吩咐

けてゐました。

シセロ では、お休みなさい、カスカ。かういふ荒れる晩には出歩けませ
んわい。

カスカ 御機嫌よう。

シセロ 入る。

カシヤス出る。

カシヤ 誰れだ？

カスカ ローマ人。

カシヤ カスカだな、其聲は？

カスカ 聰い耳だ。カシヤス、何て晩だらう？

カシヤ 正しい人間にや愉快な晩だ。

カスカ こんな怖ろしい天の威嚇があらうとは、よもや豫期してゐたものは

あるまい。

カシヤ

罪過だらけの人間界を知つてゐる者なら、豫期してゐべきだ。予な
ぞは、此危険な雷雨中を、先刻から彼地此地歩き廻つてゐた、此通
り肌衣を押開けて、雷石に胸を曝して。十字に閃く電光が天の胸
元を開くやうに見える途端に、ちようど其真正面へ此身體を持出し
てゐた。

カスカ

だが、何故貴下は、そんな、神にからかふやうな事をするんだ？ 強
大な神々が怖ろしい前兆を下して、我々を駭かす時分にや、恐れ戦
くのが當然ぢやアないか？

カシヤ

カスカ、君は鈍な男だ、君はローマ人の缺くべからざる生の火花を
有つてゐないのか、或ひは有つてゐて用ひないのか？ 眞蒼な顔をし
て、目を見張つて、天の此奇怪な憤激を只怖れたり驚いたりしてゐ

カスカ

る。が、若し君が其眞因を考へたなら……何故あんな焔が燃え立ち、何故あんな幽霊が現れ、何故禽獸が其質を變じ、何故老人が愚に返つて、子供が却つて未來を語るか、何故世上のあらゆる者が其定めにも、本來にも、持前にも背いて、奇怪至極な性質を現すに至つたかを考へたなら、天が、つまり、比奇怪な現象を以てして、人間界の状態の不自然なのを諷示し警告するのだといふことが解る筈だ。カスカ、予は、現に、或一人を名指すことが出来る、其奴は此怖ろしい夜同様に、雷ともなり、電ともなり、墓をも發き、議事堂前の獅子のやうにも吼え猛る。個人としては、君や俺に比べて決して偉くはない、が、次第に忌々しい勢力を得て、今ぢや此不思議ならしのやうに怖ろしいものになつてゐる。

そりやシーザーの事だらう？ え、カシヤス？

カシヤ

誰であらうと關はん、ローマ人が其先祖に恥ぢん筋骨を具へてゐる以上は。が、情ないこつた！ 父親の精神は死んでしまった、我々は母親の魂魄に支配されてゐるんだ。意氣地なく鞭を掛けられてゐるのを見ると、吾々は皆な女だ。

カスカ

成程、さういへば、明日は元老がシーザーを王にするといふ噂だ。さうなりや奴は、イタリーだけを除いて、海陸各地の王となるんだ。

カシヤ

さうなれば、何處に此短劍を帶ぶべきかを俺は知つてゐる。カシヤスが此カシヤスを奴隷の境涯から救つてやる。あゝ、神々よ、貴下方は斯うして弱い人間を最も強い者になさる。あゝ、神々よ、貴下方は斯うして世上の暴虐者の鼻をあかせなさるんだ。どんな石の塔獄も、どんな黄銅の城壁も、どんな深い穴牢も、どんな堅固な鐵の鎖も、斯うと決心した精神を抑制する力は無い。人が一たび此



生の羈絆に倦み果てたとなれば、生を絶つ力は何時でも吾に在る。俺が之を知つてゐる以上、世間の者も心得ておけ、今俺が忍んでゐる此専横は、拂はうとさへ思や、わが手で拂ひ除けることが出来るんだ。

雷鳴尙つゞく。

カスカ
俺にだつて出来る。いや、どんな奴隷だつて、羈絆を脱する力だけはめい／＼自分で握つてゐる。

カシヤ
ぢや、何故シーザーが専横を働くに至つたか？ 惘然に！ あの男、まさか、狼にならうとは思ふまい、ローマ人を羊も同様と見くびらなけりやア。獅子にならなかつたらう、ローマ人が牝鹿でなけりやア。急に大きな焚火をしようとする者は、先づ藁屑で火種を作る。ローマは何たる断片だ、何たる破片だ、何たる檻褸だ、シーザーのや

うな卑劣人を照し輝す無益な用に使はれるとは！ あゝ、併し、憤慨の餘り、つい飛んだことを口走つたが、それを聞いた男は、甘んじて奴隷になつてゐる氣かも知れない。若しさうだと、此責任を負はんけりやならん。が、覺悟は夙にしてるから、危険なんぞ無頓着だ。

カスカ
相手はカスカだ、讒訴や嘲弄をする男ぢやアない。さ、握手しませう。弊害を革正するために、同志をお募りなさい。踏込むからにやア、予は決して人後に落ちない。

カシヤ
さア、これで約束は済んだ。では、お話するが、予は既に、最も高潔なローマ人若干名を説落して、公明正大な、併し頗る危険な、重大計畫に一味させておきました。多分、今ごろはポンピー座の表廊下で予を待つてゐるだらう、といふのは、かういふ晩にやア人通な

んかは丸でなし、折柄をりからの空模様そらもやうも我行わがはうとしてゐる事に似て、慘ざん酷こくでもあり、猛烈まうれつでもあり、怖おそろしくもあるのがふさはしいから。

ちよいと、お潜しのびなさい、誰だれだか急いそいでやって來きます。

カスカ
カシヤ
シンナだ。歩あるき附つきで解わかる。彼あれも同どう志しです。……

シンナ出る。

シンナ、急いそいで何處どこへ行くんだ？

シンナ
貴下あなたを搜さがしに。そりや誰たれです？ メテラス・シンバー？

カシヤ
いや、カスカだ。吾黨わがたうの企くはだてに同どう意いした一人にんだ。予わたしを待まってやし

ないかね？

シンナ
（カスカに）それは悦よろこばしい。何なんて怖おそろしい晩ばんでせう？ 不ふ思し議ぎなも

のを見みたといふ者ものが二三人にんありますよ。

カシヤ
予わたしを待まってやしないかね？ え？

シンナ
あゝ、待まってますよ。……おゝ、カシヤス！ 若もし貴下あなたの力ちからであ

のブルータス君くんを身方みかたにすることが出で来きりやア……

カシヤ
まア〜。シンナ君くん、君きみは此書面このしよめんを持もってつて、町奉行ちりやう（ブルータス

の職名しやくめいの椅子いすへ載のせておいて下ください、ブルータスがつい見附みつけさう

な處ところへ。それから、此これをブルータスの宅たくの窓まどから抛なげ込んで下くださ

い。此これは、老ブルータスの像ざうへ蠟ろうで貼附はりつけて下ください。それが皆みんな

な濟すんだら、ポンピー座ざの表廊下おもてらうかへおいでなさい、予共わたしどもは彼處あそこにゐ

るから。デーシヤス・ブルータスやトリポーニヤスは彼處あそこにゐま

シンナ
すか？
メテラス・シンバーの他ほかは皆みんななゐます。シンバーは貴下あなたを搜さがしにお

宅たくへ往ゆきました。ぢや予わたしは急いそいで往いつて、お吩咐いひつけの通とほりに處分しよぶんしま

せう。

カシヤ 濟んだらポンピー座へおいでなさい。……

シンナ入る。

さア、カスカ、二人で夜の明んうちにブルータスを訪ねよう。あの男、七分は既に此方のものだから、もう一談判で全部此方のものになるに相違ない。

カスカ

おゝ！ あの男は衆人に尊信せられてゐる。我々がすりや罪惡と見られることも、あの男が賛成すりや、恰も巧妙な鍊金術が鉛を金に化けさせるやうに、それが美德ともなれば功績ともなる。

カシヤ

あの男の人徳、あの男の我々に必要な所以は、全く君のいはれる通りだ。さ、出掛けませう、もう眞夜中を過ぎた。夜明前にブルータスを訪ねて確かめておかう。

二人ともに入る。

第二幕

第一場 ローマ。ブルータスの庭園。

ブルータス出る。

ブルー

こら、リユーシヤス！ おい！ ……星の位置だけぢや、推測が附かん、夜が明けたのか、明けないのか。……リユーシヤス、こら！ ……あんなに眠込んでしまへる癖は羨ましいわい。……おい、リユーシヤス！ こら、起きろ！ こらッ、リユーシヤス！

侍童リユーシヤス出る。

リユー

お呼びになりましたか？

ブルー

リユーシヤス、書齋へ蠟燭を持ってゆけ。明りが點いたら、来て知

らせる。

リユー かしこまりました。

リユーシヤス入る。

ブルー

彼れの一命を絶つより外に法はない。自分としては何の怨みもない、排けようとするのは一へに公共の爲だ。……王となりたがってゐる彼れ、さうなつたら、性質が如何變るか、それが疑問だ。麗かな日には足元の用心をせねばならん。毒蛇の這ひ出るのはさういふ日だ。……彼れを王にする！ するとだ！ 刺を與へるやうなものだ、それで以てどんな危害を醸すやら圖られない。権力の弊害は、權に驕つて慈悲を忘れる時に始まる。……が、併し、シーザの爲に辯ずれば、彼れの理性が情の爲に昏まされた例などは會てない。が、謙遜は、嫩い野心が青雲に志す其初めに、先づ目を附

ける楷梯なのだ、登つてしまふと、其楷梯に脊中を向ける、さうして、雲中で睥睨して、最初用ひた低い足がかりを賤むのが定例だ。シーザもさうかも知れない。……で、さうさせないために、先ん

じて制する。……だが、現在のまゝでは名分が立たんから、斯ういふ風に観る、今の彼れが次第に増長して、斯様々々の甚しい事を行ふやうになるとする。すなはち、彼れは毒蛇の卵である、それが孵つて蛇となれば大害を醸すに相違ない、だから、卵の間に碎く。

リユーシヤス出る。

リユー

お書齋へ蠟燭を點けました。燧石を捜しますとて、窓で、如是な風に封をした書面を見付けました。先刻床へ入ります時分にはありませんでした。

一通の書狀をブルータスに渡す。

ブルー また床へ入れ、まだ夜は明けん。……こりや、明日は三月の祭日

か？

リユー 存じません。

ブルー 曆を調べて来い。

リユー かしこまりました。

リユーシヤス 入る。

ブルー 流星が空を走るから、其光で讀めさうなものだ。……

書狀の封を切る。

ブルー タスよ、汝は眠れるなり。覺醒して汝自らを見よ。

ローマは徒らに、云々。口を開け、手を下せ、弊を除け！

「ブルー タスよ、汝は眠れるなり。覺醒せよ！」……かういふ文

意の書面は今までも度々落してあるのを拾った。「ローマは徒らに、

云々。」……こりや斯う補はんけりやならん。ローマは徒らに一個

の人間を畏怖れて、其奴隷たる境涯に甘んぜざるべからざるか？

……何、ローマが？……先祖のブルー タスは、ローマの街から、

その頃、王と呼ばれてゐたタークキン一家の者を追出してしまった。

……「口を開け、手を下せ、弊を除け！」……俺に口を開け、手

を下せと頼むのか？……お、ローマよ！ 承知したぞ。もし

果して弊を除くことが出来れば、汝の願望は悉くブルー タスの手

で遂げられるのだ！

リユーシヤス 出る。

リユー もし、三月はもう十五日目になつてをります。

ブルー よろしい。(奥にて叩く音) 木戸口へ行け。誰やら叩く。……

リユーシヤス 入る。

カシヤスに説かれてシーザーを殺さうと思つて以來一睡もしない。
……怖ろしい事を思ひ立つて彌々それを實行するに至るまでの間
は、凄い幻影か、怖ろしい夢かを見てゐるやうな心持だ。精神と
肉體とが協議をはじめ、人の心の中が小王国の亂れたやうに攪亂
する。

リユーシヤス又出る。

リユー もし、お目にかゝりたいとおつしやりますのはお兄弟(義妹の夫)の
カシヤス様でございます。

ブルー 獨か？

リユー いゝえ、他の方もいらつしやつてでございます。

ブルー 汝が知つてゐる人か？

リユー いゝえ。耳元まで帽子を引冠つて、お顔を外套で隠していらつしや

いますから、どんな方だかお顔を見ることが出来ません。

ブルー こちらへ通せ。……

リユーシヤス入る。

きつと徒黨の者だ。……おゝ、隠謀よ！ 汝は夜ですら人に面を見
られるのを恥ぢるか、罪惡が自在に横行する夜ですら？ おゝ、で
は、逆も白晝は其奇怪な顔色を隠すに足るやうな暗い洞はあるまい
ぞ！ 隠謀よ、隠れ所を捜すのを止めて、笑の裡や愛嬌の中に身を
隠せ、持前の顔附で出歩いたら、黒闇地獄の闇を以てしても、人目
に掛らぬやうに、汝を隠し了せることは出来なからう。

徒黨の者出る。カシヤス、カスカ、ディーシヤス、シンナ、

メテラス・シンバー及びトリボニーヤス。

カシヤ お寢み中を甚だ失禮。お早うございます。御迷惑でせうか？

ブルー もう起きてみました、終夜眠ませなんだので。御一しよの諸君は予のお知合ですか？

カシヤ はい、何れもお知合です。何れも貴下を尊敬してをられる。そして、どうか、ローマの衆名士が貴下に對して抱いてゐるやうな考へを、貴下御自身にも抱かれるやうにしたいと望んでをられます。……これはトリポーニヤスです。

ブルー ようこそ。

カシヤ これはディーシャス・ブルータス。

ブルー ようこそ。

カシヤ これはカスカ。……これはシンナ……そしてこれはメテラス・シンバー。

ブルー 何れもようこそ。如何いふ御心配事があつて、諸君はお寝みなさら

ないのです？

カシヤ 少々申したいことがある。

カシヤとブルータスとだけ立離れて、耳語する。

ディシ こちらが東だ。日は此邊から出ませうな？

カスカ いゝや。

シンナ おゝ！ 失敬だが、出ますよ。あの雲に灰色の縞が出来てゐるのは日の出る先驅です。

カスカ 兩君とも間違つてますよ。それ、予の此劍の方角から太陽は昇ります、すなはち、サツと南へ寄つてゐます、季節がまだ春先ですから。もう二三ヶ月も経つと、一段高く北の方から昇りはじめます。眞東は議事堂と同じで、ちょうど此邊です。諸君、お一人づつ、順にお手を戴かう。

カシヤ
ブルー

さうして決心の誓ひをしませう。
いや、誓ふには及びません。若し公衆の顔の色や、吾々の精神の苦悶や此目前の弊害が……これらが尙ほ動機としては不足であるなら、すぐ解散して、各人床へ入つてねてしまつたはうがよろしい。角鷹のやうな高慢な専制者に生殺與奪の全權を任せてしまふがよろしい。併し今言つた三ヶ條が果して臆病者の心をも燃立たせ、鉛のやうな女の精神をも鋼鐵とならせる力があるなら、我々が國弊を除かんとするに當つて、此志以外の刺戟は要らない筈です。約束した、變心しない、と明言した以上、二枚舌を有たないローマ人に、どんな、他の羈絆が要りますか？ 正義の士が正義の士に對して、かやう／＼にしよう、若し間違つたら一死あるのみ、と明言する以上、如何いふ誓ひが要りませう？ 誓ふのは僧侶や臆病者や腹黒な

カシヤ
カスカ
シンナ
メテラ

輩や侮辱を甘受する半死の老骨や卑屈の徒輩に限ることです。惡事を企て、互ひに疑ひ危めばこそ誓ふのです。併しながら此公明正大な企を、此抑制しがたい果敢の精神を穢すやうな振舞をなさるな、其爲に誓が要るなぞと思つて。各ローマ人の體内の高潔な血も、一滴毎に不正な、穢はしい血を混へてゐるといはねばなりません、若しローマ人が其口から發した約束を分厘たりとも破るやうなら。
併しシセローは如何しませう？ そびいて見ませうか？ 身方にすれば大きな後援ですが。
是非お加へなさい。
無論ですよ。
おゝ！ どうかさうしたいものだ。あの銀色の頭髮はきツと我黨の

爲に好評を買ひます、輿論をして我々の爲た事に賛成せしめます。
我々の手は彼れの分別を経て働いたのだと言はれる、すれば血氣と
か粗暴とかいふ嫌疑は彼嚴格な顔色の底に隠れてしまひます。

ブルー

いや！ 彼れはお止しなさい、彼男には打明けないほうが可い。

彼れは何でも他人の始めた事を、其後から奉じて行く男ではありま
せん。

カシヤ

では除きませう。

カスカ

成程、彼男は不可ますまい。

デイシ

時に、吾々が手を下すべきはシーザーばかりですか？

カシヤ

デイーシャス、好い處へお心附でした。予はシーザーにあれほど愛
せられてゐるマーク・アントニーを生しておくのは宜しくないと思
ふ。

彼奴恐らく油斷のならんことを企てませう。それに彼れが實

ブルー

力は、彌々十分に利用する段となると、我々に大害を及ぼしませう
から、先んじて制するため、シーザーと共に、行つけませう。

いや、さうしては我々の所爲が餘り残酷に過ぎませう。首を切った
上に手足までも切離すとすると、憤怒にはじまって憎悪に終るので

ある、アントニーは、たかゞシーザーの手足ですから。カシヤス、

我々は神に犠牲を供へる神官になりたい、牛豚を屠る屠者にはなり

たくない。我々一同が敵と目指すのはシーザーの精神です。精神

には血は無い。おゝ！ 出来るならシーザーの精神だけを誅戮し

たい、彼れが肉體には手を加へないで。しかし、あゝ！ シーザ

ーは之が爲に是非とも血を流さねばならん。諸君よ、大膽に彼れ

を殺すとも、残忍には殺しますまいぞよ。神への供物を調理する

心で刀を揮ひませう、獵犬に與へる古肉のやうには扱ひますまいぞ

よ。我々は、老獪な主人が僕に命じて一旦の怒を實行させながら、後に之を叱るやうに、我手の爲た事を罵りたいのです。さうすれば、私怨、私憤でなく、國の爲に己むを得ず弊を除くのである、と公衆の目にも分るから、随つて虐殺者の悪名をばまぬかれます。マク・アントニーは打棄つておきなさい。彼れはシーザーの片腕以上の働きをなし得る男ではありません、シーザーの首がなくなりやア。

カシヤ

併し予は心配です、何故なれば、彼れはシーザーに對して極めて深い恩誼を……

ブルー

あゝ！ カシヤス君、彼れの事は心配なさるな。よしシーザーに對して恩誼を感じてゐるにもせよ、彼れが爲し得る事は個人的で、たかゞ哀愁に沈んでシーザーの爲に悶死する位のものです。それ

トリボ

だけの事でもすれば大した事だ。何故なれば、彼れは遊戯好で、放蕩者で、交際の樂みに我を忘れる男ですから。彼れは恐れるに及びません、殺さないことにしませう。彼奴は平氣で生きてゐて此度の事を笑ひ話にするやうな奴です。

時計の音聞える。

ブルー

靜かに！ 時計をお算へなさい。

カシヤ

三つ打ちました。

トリボ

別れる時刻ですぞ。

カシヤ

併しシーザーが今日來るか、來ないかと、まだ疑問です。何故なれば、近來大分迷信家になつてゐますから、神経作用や夢や前兆を信じないといふ彼れの以前の主張とは大ちがひに。或ひは今夜のやうな斯ういふ怖ろしい珍事や奇怪不思議な事があつて見ると、占

ディシ

者共の言葉を信じて、議事堂へ出るのを見合わせるかも知れません。其御心配には及ばん。若しさう決心してゐるやうであつたら、自分が説落して伴れて來ます。何故なれば、彼れ、平生、犀は立樹を以て欺くべく、熊は鏡を以て欺くべく、象は陷穽を以て、獅子は良を以て、人は追従を以て欺くべしといふ格言を聽くことを好んでゐます、が「併し閣下は追従はお嫌ひで」と自分が言ふと、彼奴、成程、と大得意です、おそろしく追従されてゐるのに氣が附かんで。……自分が試つて見ませう。氣に入るやうに持込んで議事堂へ引張つて來ませう。

カシヤ

いや、我々共も後から参りませう。彼れを伴れ出すために。

ブルー

八時にですか？ おそくも。

シンナ

おそくも其時刻に。ではお間違へないやうに。

メテラ

ケーヤス・ライゲリヤスは、嘗てポンピーの事を善く言つたのでシーザーに罵られ、それ以來シーザーに遺恨を抱いてゐます。誰も彼男の事を言はれんのは不思議です。

ブルー

メテラス君、君、どうか彼れの宅へ寄つて下さい。彼男は深く予を愛してゐる、それには理由のあることです。こゝへ來させてさへ下されば、予が巧く説きませう。

カシヤ

もう朝です。ブルータス、お別れませう。諸君、解散なさい。併し何方も先刻いはれたことを忘れないで、眞のローマ人たる證據をお見せ下さい。

ブルー

諸君、生々とした快活な顔色をしておいでなさい、顔に計畫を見せびらかさないやうに。我國の俳優共のやうに、飽迄も活潑に、陽氣に、沈着に、立派に行動なさい。さやうなら、何方も御機嫌

よう。……

ブルータスだけ残りて皆々入る。

こら！ リューシヤス！ 眠込んでしまったな？ よろしい。蜜のやうな重い眠の露を思ふ存分に賞翫せい。忙しい苦勞や心配が脳髓の中へ晝いて見せる妄想だの幻像だのを見たことがない汝だから其様に善く眠られるんだ。

ポーシャ出る。

ポーシ

ブルータスどの！

ブルー

ポーシャ、あんた、どうしたんだ？ 今頃何故起きたのです？ 朝

の此寒い風に弱い身體を當てるのはよくありません。

ポーシ

貴下にだつてよくありません。ブルータス、窃と床をお脱け遊ばしたのは餘りでございます。昨日のお夕飯にも、不意に起つて腕組を

して、考へ込んで、溜息をしながら、彼方此方とお歩きなすつた、で、わたくしが如何なさいましたと申したら、こはい貌をしてお睨みなすつた。尙ほ押してお訊ねしましたら、頭を搔いて腹立たしさに足踏をなすつた。けれどもわたくしは尙ほ押してお訊ねしました。けれども貴下は御返辭をなさらないで、腹立たしさに彼方へ行けといふ手眞似をなすつた。で、わたくしは退りました、酷く激していらつしやるのをお慕らせ申してはと心配もしましたし、二つには、これは誰にも有りがちの、ほんの一時の御不機嫌であらうと思ひましたから。ところが、それが爲に、貴下は物も食らなければ物もおつしやらず、お眠りもなさらない。若しもお氣質が變つたほどにお姿までも變つたなら、ブルータス、わたくしは貴下を見分け得ない程であります。貴下、何卒、其御心配の原因をわた

くしに知らせて下さいまし。

ブルー

予は身體の具合がわるい。それっきりのだ。

ポーシ

ブルータスは愚かな方ではありませんから、若しお身體の具合がわるければ、それを治す方法をお探りなさるでございませう。

ブルー

だから、さうしてゐますよ。ポーシヤさん、床へお歸りなさい。

ポーシ

ブルータスはお加減がわるい？ それなのに、だらしくお下衣の胸を披けて濕っぽい朝の空氣をお吸ひなさるのが御養生になりませうか？ マア！ ブルータスは御病氣なのに、衛生に好い筈の床の中を脱け出して、わざと夜の毒氣を冒したり穢れた空氣に觸れたりして、彌が上に悪い病を招かうとなさるですか？ いゝえ、ブルータス、貴下は何か胸の中に、切ない、辛い、病の種を持っておいでなさるに相違ない、それを妻たるの權利を楯にして、わたくしは是

非承はらねばなりません。それで、かう土下座をして祈りまする、

嘗ては賞めて下さいましたわたくしの美しさを呪文にして、愛すとおっしゃった其誓言を呪文にして、吾々二人を夫婦にし、同心一體とならしめた其盟約を呪文にして、わたくしは貴下に祈ります、打明けて下さいまし。わたくしは貴下の半身でございませう、貴下みづからでございませう、何故そんなに鬱いでおいでなさるのです、暗の夜にすら顔を隠す六七人の人達が先刻見えてゐましたが、あれは如何いふ人達でございませうか、打明けて下さいまし。

ブルー

ポーシヤさん、土下座なんぞなさるな。

ポーシ

かうする必要はありません、貴下がやさしうさへして下されば。婚禮の規約の中に、もし、ブルータスどの、妻は夫の身に關する秘密を聞くことは出來ないといふ箇條がございましたか？ 夫婦は同心

一體とは言へ、限りがあつて、言はゞ、只三度の食事を共にしたり、お寢室の伽をしたり、時折お話をする位に過ぎるのでございますか？ わたくしは貴下の愛情のほんの外郭に住んでゐるのでございますか？ 若しさうなれば、ポーシヤはブルータスの妻ではなくて、娼妓同様でございます。

ブルー

あなたは予の眞實の立派な妻です、予の此切なる心へ往來する眞赤な滴りほどに大切な、大事の妻です。

ポーシ

それが眞實でございますなら、是非秘密を打明けて下さいまし。成程、わたくしは女でございます、けれどもブルータスどのが娶つて妻となされた女です。成程、わたくしは女でございます、けれどもケートーの實女です、世に名を知られた女でございます。貴下は、わたくしをば、さういふ父や夫を有つてゐても、只の女々し

ブルー

い女に過ぎないと思召しますか？ 秘密をお話しなされませ、決して口外はいたしません。決心すれば、如何な苦痛をも忍耐し得る證據は、手づから此股に傷を負はせて、いつぞやお見せ申しました。それすら忍び得たわたくしが夫の秘密を忍び得ますまいか？ おゝ、神々よ！ 此立派な妻に恥ぢざる身とならしめたまへ……

奥にて戸を叩く音。
や！ だれか叩く。ポーシヤ、暫く奥へいつてゐて下さい。今に心中の秘密を話させよう……一切の事件を打明けます、わしの心配顔に現れた一切の事を……さ、早くあちらへ……

ポーシヤ入る。
リユーシヤス、誰れだ叩くのは？

リユーシヤス、ライゲリーヤスを案内して出る。

リユー 御病氣の方がお目にかゝりたいとおっしゃいます。

ブルー メテラスが噂をしたケーヤス・ライゲリーヤスだ。こりや、傍へ寄れ。……ケーヤス・ライゲリーヤス！ 如何です？

ライゲ 御免下さい、病人の口から御挨拶を申し上げます。

ブルー おゝ！ ケーヤス君、折もあらうに、悪い時に、病魔に襲はれなす

ライゲ った！ 貴下が病氣でなかったらばと思ふに！

予は病人でない、若しブルータスが大義名分に恥ぢない重要な計畫をしてござるならば。

ブルー ライゲリーヤス、予は正にさうした計畫をしてゐます、貴下の健康がそれを聴くに堪へるならば。

ライゲ ローマ人の拜するあらゆる神々、きこしめされい、自分は今病人ではござらん。あゝ、大ローマの精霊！ 名譽の血統を傳へ受け

られた豪傑！ 貴方は、修験者のやうに、自分の病魔を祈り伏せて、死にかゝつてゐた自分の精神を祈り起してくれられた。さア、驅け向へとおっしゃりや、どんな困難とも闘ひますぞ、きつと克つて見せますぞ。 どういふ事をします？

ブルー 病んで仆れてゐる人々を強健にしようといふのです。

ライゲ それと同時に、今強健でゐる或男を斃さなけりやなりませんまいな？

ブルー それも必要です。 くはしい事は、ケーヤス、目指す其者の宅へ参る途中でお話しませう。

ライゲ お出掛なさい、勇氣が俄に奮ひ起りました、何をするのか知らんが、ブルータスが先導とありや、澤山です。

ブルー では、御案内ませう。
ふたり 二人とも入る。

第二場 同處。シーザーの館。

雷鳴電光。シーザー夜間服(樂著姿)で出る。

シーザ 今宵は天地ともに穩かでなかつた。三度までもカルパーニヤが夢を見て大きな聲で「助けて下さい、シーザーどのを殺さうとしてゐます！」と叫んだ。……だれかゐるか？

一從者出る。

從者

御前！

シーザ

神官にすぐ犠牲をするやうに吩咐ける、さうしてそれが神慮に合つたか、如何か、結果を聞いて來い。

從者

かしこまりました。

從者入る。

カルパーニヤ出る。

カルパ

如何なさいました、シーザー？ お出掛遊ばすお積り？ 今日御

外出なされてはいけません。

シーザ

いや、出掛ける。此シーザーを嚇さうとした者共もあつたが、曾て正面に向ひ得た者はなかつた。シーザーの面を見りや忽ち消え

てなくなつちまふ。

カルパ

シーザー、わたくしは曾ぞ前兆なんかを信じたことはありませんでしたが、今日は怖ろしう思ひます。わたくしどもが見聞きしたことの外に、それはく恐ろしい物を夜廻りの男が見たと申してをります。牝獅子が街中で仔を産むやら、墓穴が口を開いて死骸を吐き出すやら、狂暴な、猛烈な武人が雲の中で戦ふやら、列を作り、隊伍を整へ、正式の軍の通りに。すると、其血が雨のやうに議事

堂の上へ降り灑ぎ、空中では打合ひ犇めく物音がして、馬は嘶く、手負はうめく、剩へ幽霊がをめき叫んで、街中を駆廻つてゐましたさうな。お、シーザー、こりや全く只事ぢやありません。わたしは怖ろしう思ひます。

シーザ

大いなる神達が斯うと思ひ立つてなされることを人力で避けることは出来ん。予は、やっぱり、外出ける。はて、何かの凶兆かも知れんが、世界一般に對しての知らせだ、シーザー一人に對しては

カルバ

ない。乞食が死ねばとて彗星は現れませんが、王侯の亡くなる時には、天に輝り物が現れて、それを知らせます。

シーザ

臆病者は死ぬまでに幾たびも死ぬ。勇者は只た一度の外死の味を知らん。今まで聞いた世の中の不思議な事の中で、予が最も奇怪

に思ふのは、死を恐れるといふことだ。死は所詮まぬかれがたいものである以上、來る時には來る。……

從者出る。

從者

神官は何と言つた？

今日の御外出は御無用と申します。御犠牲の臟腑を引出して見

ました所、その獸に心臟がなかつたと申します。

シーザ

神が臆病者を耻しめようとなさるのだ。予が若し今日恐れて家に

留まるやうであると、シーザーは心臟の無い獸とならざるを得ない。いや、シーザーは留らん。危険めは十分知つてゐる筈だ、シ

ーザーの方が彼れよりも危険なことを。俺と彼れは同日に生れた

二頭の獅子だが、俺の方が兄だから一層怖ろしいのだ。……シー

ザーは外出ける。

カルパ あゝ、悲しや！ 御自信が過ぎてお智慧の鏡が昏りました。今日はお外出なされては不可ません。貴下ではなく、わたくしが心配してお引留め申したとおっしゃいます。元老院へはマーク・アントニーを遣しました、今日は御不快だと申させませう。膝を突いてお願い申します、お聴入れ下さいまし。

シィザ お前の氣休めの爲に、では、マーク・アントニーに予は不快だと傳へさせて、邸に留ることにしよう。……

デューシャス・ブルータス出る。

デューシャス・ブルータスが来た、彼れにさう言はせよう。

シィザー、御安泰を祝します！ お早うございます、シィザー閣下。元老院へお迎ひの爲に参りました。

シィザ ちようど好い時に来て下さった、元老達へ、予は今日は往かんと傳

へて下さい。往かれないと言っては諛だが、往き得ないと言っては尙ほ諛だ。今日は往かない、とさう言つて下さい。

シィザーは御不快だと言つて下さい。

カルパ シィザーは虚偽を傳へさせる？ 遙かなる外國までも此腕何の爲にシィザーが虚偽を傳へさせる？ 遙かなる外國までも此腕で伐従へたシィザーだ、何の爲に白髮の老人共に事實を語ることを恐れるか？ デューシャス、只、シィザーは往かない、と言つて下さい。

デューシャス シィザー閣下、何か理由をお聞かせ下さい、只さう申したばかりでは、わたくしが嘲弄されます。

シィザ 理由は予の意志にある。往かうと思はない。元老への返辭はそれで十分だ。が、予は君を愛してゐるから、君の満足のために言ふが、此カルパーニヤが、妻が止めるのだ。といふのは、昨夜妻が夢に予の像が夥しい噴水口を有つてゐる噴水盤のやうに盛んに鮮

血をほどばしらしてゐると、其處へ多勢の強健げなローマ人が莞爾笑ひつゝやつて来て、頻にそれへ手を浸すのを見た。で、それを妻は、何か災厄の知らせであり前兆であると考へて、今日は決して外出してくれないな、と膝まづいてまで予に頼んだのだ。

ディシ

其お夢の御解釋は全く間違つてゐます。それは結構な、めでたいお夢です。閣下の像が血を噴出してゐる處へ、多勢のローマ人が莞爾笑つてやつて来て、それへ手を浸すといふのは、大ローマは畢竟閣下の血を啜つて復活するのでありますから、そこで歴々のともがらが群り來つて、閣下の血で紋章を染めたり、印跡を捺したり、記念品を作つたり、目標を製したりいたすといふ意味なのであります。それが奥方のお夢に善う現れてをります。

シーザ

さう解釋したはうが當を得てゐるやうだ。

ディシ

當を得てをりますことは、只今申上げることをお聴になると、それが一層判然いたしました。お聴き下さい。元老會は本日をもつてシーザ閣下へ王冠を獻すべく決定しました。若しおいでにならんと申遣されました時分には、氣が變るかも知れません。のみならず、或ひは之を嘲弄の好いかゝりに、元老會はシーザの奥方がもつと吉い夢を見られるまで解散したがよからうなどと申すものもございませう。シーザが引隠んでお出掛なさらんとすると、「あれ見よ！ シーザは怖つてゐる」などと耳語をしかねますまい。御免下さい、シーザ。閣下の御行動に對し、深い愛敬を持してをります餘りに、つい有のまゝを申上げてしまひました、とかく分別が情に負けてしまひまするので。

シーザ

カルパーニヤ、どうです、あんたの心配は、愚にもつかないことで

あつたのだ！ それを取上げたのを恥かしく思ふ。 禮服を持って來て下さい、外出るから。……

パブリヤス、ブルータス、ライゲリーヤス、メテラス、カスカ、

トリボニーヤス及びシンナ出る。

あゝ、あそこへパブリヤスが予を迎へに來た。

パブリ
お早うございます、シーザー。

シーザ
ようこそ、パブリヤス。 やア！ ブルータス、君も斯んなに早く起

きたのか？ ……お早う、カスカ。 ……ケーヤス・ライゲリーヤ

ス、大層瘦ましたね。 シーザーは君に對して君を惱ました瘡ほど

の敵意は有つてゐませんぞ。 ……何時だね？

ブルー
シーザー、八時を打ちました。

シーザ
わざわざ御出迎下すつた諸君の勞を謝します。 ……

アントニー出る。

御覽じろ！ 夜通し飲明すアントニーまでが起きて來ました。 ……

アントニー、機嫌よう。

アント
シーザー閣下にも御機嫌よろしう。

シーザ
侶の者に準備させい。 斯う諸君を待たせては濟まん。 ……や、シ

ンナ。 ……やア、メテラス。 やア、これは、トリボニーヤス！ 君には

一時間たつぷり話すことがある。 必ず今日訪ねて下さい、忘れない

でな。 君に忘れさせないやうにしたいから、予の傍にゐて下さい。

トリボ
承知しました。 始終お傍にをりませう、貴下の最上の御親友がた

は、爲に目を敬てられまするほどに。

シーザ
諸君、奥へ來て、予と一しよに一杯飲んで下さい。 それから直に連

立って出掛ませう、無二の親友らしく。



ブルー

(傍白)らしい者が必ずしも其者ではない、と思ふと、おゝ、シーザ
ー！ 此胸が痛くなる。

一同入る。

第三場

同處。議事堂附近の街頭。

學究アーチミドラス一葉の書附を讀みつゝ出る。

アーチ

シーザーよ、ブルータスに用心せられよ。カシヤスに油斷あるな。
カスカに近づきたまふな。シンナに目を附けられよ。トリポーニ
ヤスを信任せらるゝな。メテラス・シンバーに善く注意あれ。デ
シヤス・ブルータスは御身を愛する者にあらず。ケーヤス・ライゲ
ーリヤスは御身を怨める者なり。此等の徒輩はシーザーに敵意を
抱く點に於て悉く一致せり。御身にして不死不滅ならざる以上

は、自家の身邊に留意せられよ。油斷は大敵なり。強大なる神々
よ、シーザーを護りたまへ！

御身を愛敬する アーチミドラス。

シーザーが通るまで此處に立つてゐて、訴訟人らしくもてなして、
之を渡さう。情ないことぢや、どんな徳があつても、嫉妬の牙をま
ぬかれることは出来ん。若しお前さんが之を讀めば、おゝ、シーザ
ー！ お前さんは助かるが、若し讀まっしやらぬやうぢやと、運命は
叛逆人の身方になつてしまふ。
アーチミドラス入る。

第四場

同處。同じ街の他の一部。ブルータス

の宅の前。

ポーシヤとリユーシヤスと出る。

ポーシ どうぞ、お前、走つて元老院まで往つて來とくれ。わたしに返辭な

んかしないでも可いから、早くよ。……何をしてゐるんだよ？

リユー でも、奥さん、御用をうけたまはりませんでは。

ポーシ わたしや直に往つて直に戻つて來て貰ひたいんだ、用なんか吩咐けて

ゐる間に。……おゝ、忍耐よ、克己よ！ わしの身邊を離れてく

れるな、しつかり身方になつてゐてくれ、此心と舌との間に大きな

山を築いてくれ！ 心は男でも、力は女なんだ。あゝ、女の身で

祕密を守るといふことは、何て、ま、辛いものだらう！……まだ

そこにゐるのかい？

リユー 奥さん、何を致すんでございます？ 議事堂へ驅けて行くだけでご

ざいますか？ それから戻つて來るだけでございますか？

ポーシ さうだ、旦那の身に何も變りはないか見て來とくれ、出がけに、如

何にも御氣分がわるさうだったから。それから、シーザーが如何い

ふことをなさるか、どんな訴訟人がシーザーの傍へ寄るか、それを

よく見て來るんだ。や！……あの騒ぎは何だらう？

リユー 奥さん、何にも聞えやしません。

ポーシ よう耳をすましてお聴き。ぐわアといふ物音が聞えました、叩き合

ひをしてゐるやうな物音が。風につれて議事堂の方から。

リユー 奥さん、ほんたうに何にも聞えやしません。

豫言者の老人出る。

ポーシ ちよいと、お前さん。お前さんは何方にゐましたか？

豫言 自宅にをりました。

ポーシ 今は何時です？

豫言

九時頃でございます。

ポーシ

シーザーはもう議事堂へ往かれましたか？

豫言

奥さん、まだでございます。わしはこれから場所を取りにまゐりますのぢや、シーザーさまが議事堂へ往かッしやるのを見るために。

ポーシ

お前さんは、何かシーザーさまに願ひがあるんですか？

豫言

いかにも、ございます、もしシーザーさまがわしの訴訟を聴かつしやるほどお身を大切になさりますれば。わしはシーザーさまにお身を大事になされませと願ふのでございます。

ポーシ

ぢや、何か、シーザーさんに害を加へようといふ企でもありませんか？

豫言

有ると知れてゐる事は一つもございませんが、有りさうな虞れは幾らもございます。……さやうなら。……こゝは街が狭い。シー

ザーの後からは元老達だの、奉行達だの、並の訴訟人だのが群つて従いて來るから、弱い者は押殺されてしまふだらう。もつと人少なの處を捜して、そこでシーザーさんに物をいひかけよう。

豫言者入る。

ポーシ

もう歸らなけりやならん。あゝ、情けない！ 何て弱いものだらう

女の心は！ おゝ、ブルータス！ 天の助けで首尾よう本望をお遂

げなさるやうに。……(傍白)きつと、彼れに聞かれたに相違ない。

……ブルータスの訴訟事は、多分、シーザーさんが聴いてくれな

いだらう。……(傍白)おゝ！ 氣が遠くなる。……リユーシヤス、

驅けて往つて、旦那に言傳をしておくれ、わたしは快活だッて。そ

れから、直戻つて來て、旦那が何とお言ひなされたかを聞かしとく

れ。

左右に別れて入る。

第三幕

第一場

ローマ。議事堂前。元老議員

等一段高き處に著席してゐる。

一群の公衆。其中にアーチミドラスと豫言者。喇叭亂吹。
シーザー、ブルータス、カシヤス、カスカ、ディーシヤス、メ
テラス、トリポーニヤス、シンナ、アントニー、レピダス、
ポーピリヤス、パブリヤス及び其他出る。

シーザ (豫言者に) 三月十五日は來たぞ。

豫言 さやう。併しまだ過去りはしませんぞ。

アーチ シーザー公、御機嫌よろしう……此書面をお読み下さい。

ディシ トリボーニヤスが願ひをります、御閑暇に此請願書を御一讀下され
ますやう。

アーチ おゝ、シーザー！ 先づ、手前のお読み下さい。これはシーザ
ー御自身に關した大切な御訴訟でございます。お読み下さい。

シーザ 予の身に關したことなら、最後に處分すべきだ。

アーチ いや、御猶豫なさいますな、直様お読み下さい。

シーザ やア！ 此奴は狂人か？

パブリ こりや、退れ。

カシヤ ヤア！ 其方は街頭で強ひて直訴をしようとするのか？ 議事堂へ
参れ。

シーザー 元老院へ登り行く。他の者も續く。元老議員等起
立する。

ポピリ (カシヤスに) 御計畫の成功を禱りまする。

カシヤ え、ポープリヤス、計畫とおっしゃるは？

ポピリ 御機嫌よう。

シーザーの方へ進む。

ブルー (カシヤスに) 何をいひました、ポープリヤス・リーナは？
カシヤ 我黨の計畫の今日成功せんことを禱ると言ひました。我々の陰謀
が洩れたらしい。

ブルー や、シーザーの傍へ行きますぞ。御注意なさい。

カシヤ カスカ、手早くおやんなさい、邪魔が入るかも知れない。……ブ
ルータス、どうしたらよからう？ 露見すれば、カシヤスか、シー
ザーか、何方か、此門を出ない、おれは自殺しッちまふから。

ブルー カシヤス、安心なさい。ポープリヤス・リーナは我黨の計畫を密

告してゐるのぢやない。あれ、あの通り笑つて話してゐる、シーザーも平氣でゐる。

トリボーニヤスは機を心得てゐます。ブルータス、御覽なさい、邪魔になるマーク・アントニーを伴れ出します。

アントニーとトリボーニヤスと入る。シーザー及び元老等、席に著く。

ディシ メテラス・シンバーは何處にゐます？ さ、早くシーザーに請願させませう。

ブルー とうに準備してゐる。手近に居て應援なさい。

シンナ カスカ、眞先に手を下すのは君だぜ。

シーザ 用意は可いかな？ ……シーザーと元老會とで矯治せねばならんやうな事が何かありますか？

メテラ 高大無比にして權勢並ぶ者もなきシーザ閣下、メテラス・シンバ

ー、かくの如く恭々しく御前に膝まづきまして……

と膝まづく。

シーザ シンバー、君の言葉を遮らざるを得ない。その如く膝を屈し、その如く言葉を卑うして言はれると、尋常人は其慢心を煽られた嬉しさに、一旦嚴重に言渡したことを、小兒の法律同様に、すぐ又取消すまいものでもないが、此シーザーにそんな卑しい血が……甘い言葉や低い腰や犬のやうな追従の爲に其心を蕩され其本性を失はしめられるやうなそんな卑しい血が……通つてゐると思つたら愚の至りだ。君の兄貴は國法で追放に處したんだ。今更君が彼れの爲に腰を曲げて禱つたつて、犬のやうに追従したつて、予は只君を犬の如く蹴返すばかりだ。シーザーは不正をしないと同時に、故なくして

罪を赦すことをもしない。

メテラ
こゝに居らるゝ人々のうちに、自分よりも徳が高く、自分の聲よりもシーザーの耳に快く響く聲を有たれた方はをられませんか、兄の追放赦免の儀をお願いひ下さる方はないか？

ブルー
シーザー、貴下の手に接吻します、併し、こりや追従ぢやありません、どうかパブリヤス・シンバーの追放を速かに赦免しておやり下さい。

シーザ
えッ、ブルータス！

カシヤ
どうか、御宥免を、シーザー。どうか、御宥免を。此通りカシヤスが膝まづいてお願いひします、パブリヤス・シンバーの御赦免を願ひます。

シーザ
自分が貴下のやうな男であつたら、さう願はれりや當然心を動すで

もあらう、また人を動す爲に祈ることの出来る男であつたら、祈られて心を動しもするだらうが、自分は動かない、確固不動を特質とするに於て、碧落中に又と類ひのない北極星の如くに。大空を彩る無数の火花は、ありや悉く星だ、そして悉く光り輝いてゐる。が、其中で不動の地位を保つてゐるのは只た一つ。人間界とても同じくだ。夥しい数の人間がおのゝ血肉を又智を具へてゐる、しかも其多数の中で如何なる事にも動かされないで嚴として其地位を保ち得る者はといふと只た一人だ。それは予だ。その一證を見せよう。自分は嘗て斷乎としてシンバーを追放した、すなはち斷乎として其まゝにして置く。

シンナ
おゝ、シーザー！

シーザ
退れ！ オリンパス山を動す積りか？

ディシ 大シーザー閣下、……

シーザ ブルータスが膝まづいてさへも無効だったぞ。

カスカ もう……此上は……腕づくだ!

とカスカ眞先きに一撃を下す。つゞいて一同競ひ起つてシーザーを襲ふ。暫く立廻り。とど、ブルータスがシーザーを刺す。

シーザ や、ブルータス、お前までが! ぢや、もう!

シーザー倒れて死す。

シンナ 自由萬歳! 自主萬歳! 專制政治は死んぢまった! 驅けて行つ

て、觸れ廻れ、街の中を呼ばつて歩け。

カシヤ 誰れか公演壇へ往つて呼ばはりなさい「自由、自主、解放」と呼ば

はりなさい。

ブルー 民衆達も、元老諸君も、怖れるには及びません。お逃げなさるには

及ばん。じつとしてお在なさい。野心家を罰したまでです。

カスカ ブルータス、貴下は演壇へお出なさい。

ディシ カシヤもお出なさい。

ブルー パブリヤスは何處に居られる?

シンナ こゝにをられます、今の騒動で、驚いて、茫然としてをられます。

メテラ 諸君、お集りなさい、或ひはシーザーの黨派の者が……

ブルー いや、集るには及ばない。……パブリヤス、御安心なさい。貴下

の身に、いや、何人にも、害を加へようとしてはをりません。パブ

リヤス、どうか、人々に然うお傳へ下さい。

カシヤ 速く此處を御退席なさい、公衆が群つて来て、犇くはずみに、御

老體に害を及すやうなことがあるとわるい。

ブルー さうなさい。此行爲の責任は、一へに吾々のみが負ふべきである。

トリボーニヤス再び出る。

カシヤ アントニーは？

トリボ

驚いて自宅へ逃歸りました。男も女も子供も目を見張つて、大審判日が来たやうにわめきたて、走り廻つてをります。

ブルー

運命を司る神々よ、あゝ、能ふべくば、豫め汝達の意志が知りたい。早晚死ぬものとは誰しも知つてゐる。人の重きを置くは、何時死ぬか何時まで生きてゐるかといふことである。

カシヤ

して見れば、生命を二十年縮めてやるのは、死を怖れる苦痛を二十年だけ縮めてやるやうなものだ。

ブルー

さア、さう見れば、殺すのは恩恵である。すなはち死を怖るゝ年數をシーザーの爲に短縮してやった吾々は彼れが親友に相違ない。

……さア、ローマ人諸君、シーザーの死骸の傍へ屈んで血汐

にもお塗りなさい。御一しよに市の中央へ出張して、お互ひに、頭上に紅ゐの劍を揮閃かして、「平和、自由、自主、萬歳」と一齊に呼ばはりませう。

カシヤ

さア、屈んで手をお浸しなさい。……あゝ、此後幾百年を経

ブルー

る間に、今日我黨が演じた此壯烈な舞臺面が、又幾たび演ぜられることやら、まだ生れない國土に於て、まだ知られない國語を以て！

カシヤ

又、幾たびシーザーが（劇に仕組まれ）戯れに血を流すことやら、今ポ

ンピーの像下に倒れて、塵埃同様に見えてゐるシーザーが！
又、其劇のたび毎に、國家に自由を與へた志士と我々の名は唱はれませう。

ディシ え？ 出掛けますか？

カシヤ さ、さ、諸君、出掛けませう。ブルータス君を先導にして、此のローマの最も勇敢な、最も高潔な吾々一同が其後に従ひませう。

一 従者出る。

ブルー ま、お俟ちなさい！ 誰れか来ました。アントニー方の者だ。

従者 ブルータスどの、かやうに膝まづけと主人が申しつけました、かやうに下座をせいとマーク・アントニーが申されました、さて平伏いたした上で、かやうに申せといはれました。……ブルータスどのは高潔で、賢明で、勇敢で、正廉であり、シーザーどのは偉大で、大膽で、高邁で、慈愛深くあらせられた。アントニーはブルータスどのを愛し且つ敬し、シーザーどのを畏れ、敬ひ、愛しもしてをつたと申せ。若しブルータスどのが、アントニーをして安全に

参向することを御許し下され、且つシーザー御殺戮の止みがたかつた所以を御説明下されますならば、マーク・アントニーに於ては、死せるシーザーよりも生けるブルータスどのを愛敬いたし、此後、形勢が如何相成りませうとも、悉く忠實にブルータスどのに随従し、事をも運命をも共にすべく決心してをりまする、と斯様に主人アントニーが申されます。

ブルー 御主人は賢明な、勇敢なローマ人だ。予は決して彼人をわるく思つたことはない。歸つてお言ひなさい、若し此方へお出下さるならば、十分辯明をいたさうし、わしの名譽に掛けて、何事もなくお歸し申さうと。

従者 すぐに伴れて参ります。
従者 入る。

ブルー 身方にすりや有利です。

カシヤ さうゆきや結構だが、どうもあの男は頗る油断がならないやうに思はれる。それに、予の疑ひは、とかく適中することが多いんですから。

アントニー出る。

ブルー いや、もうあそこへやって来た。……よろこそ、マーク・アントニー。

アント (シーザーの死骸に) おゝ、偉大なるシーザー！ あゝ、こんなみすぼらしい姿となられたか？ 百戦百勝の光榮も名譽も戦利品も、只これッばかりの大きさに縮小してしまつたか？ さやうなら。……諸君、自分は貴下方の御趣意は心得てをりません、他に血を流すべき者があるか、如何か、誰れが誅せらるべきであるか、心得てをり

ません。若し自分が其一人であるならば、シーザーが最期の時に優す死時はありません、又、貴下がたの其劍で、……全世界の上もない貴い鮮血でぬられた貴下がたの其劍で……殺されるほど名譽なことはありません。自分をお憎しみならば、今貴下方の手が韓紅に薫り煙立つてゐる最中に、どうぞ御存分に願ひたい。よし一千年存命するとも、今日只今ほどに喜んで死ぬ日はありますまい。如何なる場合も、どんな死方も、こゝでシーザーと枕を並べて、一代の烈士英傑たる諸君の手にかゝつて死ぬほど本望ではありません。

ブルー おゝ、アントニー！ 吾々に向つて死をお求めなさるな。此手や此行爲を御覽なさりや、吾々は如何にも残酷な血を好む徒輩とも見えませうが、それは此手と此手がした残忍な結果を見て吾々の心を

御覽なさらんからだ。吾々は飽迄も慈悲、惻隱の心でしたのである。ローマ全國を痛ましいと思ふ心が、火が火を消すやうに、一人を痛ましく思ふ小さい慈悲心を壓倒して、シーザーを殺すに至らしめたのです。貴下に對しては、マーク・アントニー、貴下には吾々の劍も鈍り、腕力も脱けて、心も兄弟のやうになり、愛敬の好意を表して、うやくしくお迎へいたします。

カシヤ

貴下の發言權は、これから役員を任免黜陟するに當つて、他の諸君の同等に、重んずる心得です。

ブルー

只しばらくお俟ちを願ひたい、恐怖の餘り我を忘れてゐる公衆共を鎮撫してしまふまで。其上で、殺す其間際までもシーザーを愛してゐた自分が、何故かういふ行動をしたかをお話ませう。

アント

諸君の賢明を疑ひはしません。御めいゝの血に染みたお手をい

ただきたい。まづ、ブルータス君に握手を願ひます。次に、ケーヤス・カシヤス君、貴下の手を。さア、ディーシヤス・ブルータス、貴下のを。さ、貴下のを、メテラス。貴下のを、シンナ。それから勇敢なカスカ、貴下のを。最後に、併しながら最少の好意を以てゞはなく、トリポーニヤス君、貴下のを。……諸君よ、……あゝ、自分は何と言はう？ 自分の信用は今あぶなく地に滑り落ちさうになつてゐる、諸君は二つの悪名の何れかを自分に與へようとなさるに相違ない、自分を卑怯者と見るか、輕薄な諂諛者と見るか。……おゝ、シーザー、予は足下を愛してゐたんだ、それが眞實である以上、若し今、足下の亡魂が此あたりにさまよつてゐるなら、かうしてアントニーが足下の死骸の前で、其仇敵の手を、ローマの烈士英傑の血に染みた手を握るのを見て、殺されたより一層無

念ねんに思おもはないだらうか？ 此この傷口きずぐちの數程かずほどの目めが予わたしに有あつて、其その傷口きずぐちから鮮血せんけつが湧出わきでるやうに涙なみだを流ながしたはうが、足下きみの敵てきと和睦わぼくなんかするよりや予わたしに似につこらしい仕草しぐさでもあらうに。……赦ゆるして下ください、シーザー！……あゝ、勇敢ゆうかんな鹿しかよ、汝おまひはこゝで追詰おひつめられて、こゝで命いのちを落おとした、さうして其その獵師かりうどら等は、汝おまひの最期さいごの血ちで韓紅からくれなゐに染そまつて、此處こゝに立たつてゐる。おゝ、大世界だいせかいよ！ 汝おまひは辛やっと此大このおほ鹿おほしかを容いれ得うる所ところの森もりたるに過すぎなかつた、さうして此大このおほ鹿おほしかは、おゝ大世界だいせかいよ、其森そのもりの主ぬしであつたに。あゝ、多勢おほせいの貴公子きこうしの獵矢さつやにかかつて射いすくめられた鹿しかどうやう同様な、あさましい此死このしにさま様さま！

カシヤ

マーク・アントニー、……

アント

失禮しつれい、ケーヤス・カシヤス。シーザーの仇敵きうてきでも、斯かう言いひませう、さすれば親友しんゆうとしては冷淡れいたんな弔辭てうじです。

カシヤ

いや、貴下あんたがシーザーを賞讚しょうざんせられたのを咎とがめるんぢやない、貴下あんたは吾々われ々と如何どういふ協約けいやくしようといふのか、それを聞きかうとしたのです。我黨わがたう一味みの中に名なを列れつしようとせられるのか、或あるひは吾々われ々は貴下あんたには頼たよらず行動かうどうすべきか、それが承知うけたまはりたい。

アント

いや、無論むろん、その爲ために握手あくしゆをしたのです。が、シーザーの死骸しがいを見みて、つい我われを忘わすれたのでした。自分じぶんは諸君しよくんと合體がつたいします、諸君しよくんに好意こういを表へうします、シーザーが誅ちゆうせられなければならなかつた理由りゆうは、十分ぶんせつ説明せつめいして下くださるものと信しんじますから。

ブル

その説明せつめいが出来できないやうなら、これは無慚むざんな暴舉ぼうぎよです。いや、十分に推重すいぢゆうせらるべき理由りゆうがある。アントニー、たとひ貴下あんたがシーザーの男おとこであつても、満足まんぞくせられるでありませう。

アント

自分の要求じぶんのえうきうはそれだけです。もう一つひとつのお願ねがひは、シーザーの遺ゐ

骸を公會場へ持つて參つて、演壇に於て、友人としての弔辭を演べることをお許し下されたい。

ブルー そりや差支ありませんよ。

カシヤ ブルータス、ちよいと。……(ブルータスだけに)いけませんよ、うっかり承諾なすつたが、アントニーに弔辭なんかやらせないはうがよろしい。公衆が彼れの言ふことを聞いて、どう感動すまいものでもないから。

ブルー 失禮だが、眞先に予が演壇に上つて、シーザーを誅するに至つた所以を明かにする。それから、アントニーの弔辭は吾々が許してやらせるのだと言ひます、シーザーの葬儀を正式に執行させるのも、吾々の承諾の上の事だと主張します。だから、我黨の利となるのも害にはなりません。

カシヤ

どんなことが起るまいものでもない。感心しないねえ。

ブルー

マーク・アントニー、さ、シーザーの死骸を持つておいでなさい。弔辭をお演べなさる時分に、我黨を非難する口吻のないやうに、併しシーザーの美所は如何お賞めなされても、それは關はん、只吾々の許可の上でと斷つて下さい。でなきや貴下をシーザーの葬儀に參ぜしめることは出來ん。それから、予が往つて演説する其同じ演壇で、予の演説の濟んだ後でやつて貰ひたい。

アント

よろしい。それ以上を望みません。

ブルー

ちや、葬儀の準備をして、後からお出なさい。

アント

おー！ 赦して下さい、血に塗れた土塊となり果てたシーザーよ、俺が汝を屠り殺した奴等と睦じさうにしてゐるのを堪忍して下さい

い。あゝ、汝は涼々として休むこと無き時の潮流中に生存した人間中の、最も高い、最も偉いなる者の遺骸だ。かういふ貴い血をむざ／＼と流しをつた奴等め、今に思ひ知りをらう。俺は汝の傷口に對つて豫言しておく……物を言はない多くの口のやうに、一つ一つに眞赤な唇を開いて、どうぞ成代つて怨を演べてくれと求めてゐる此傷口に對つて豫言しておく……天罰は人々の四肢五體に降り下つて、内亂起り、骨肉相食み、イタリー全國到る處死骸の山を築き、殺傷破壊は尋常一般の事となり、怖ろしい事も見慣れ、聞慣れ、現在の母親が其幼兒の兵刃に切り裂かれるのを平氣で笑つて見るほどともなり、残忍な所行ははびこり、慈悲の息の根は止るであらう。さうなりや、シーザーの亡靈は、今こそ復讐をすべき時と、焦熱地獄から驅け來つた復讐神を身側に從へ、こゝらあたりを

徘徊して國王らしく大音聲に、「かゝれ／＼！」と號令を下して、彼の兵(には附きもの)の三疋犬(飢饉、劍害、兵燹)を放つであらう。さうなりや、此無慚な所行は、埋葬されないで喰き苦む死骸と共に、地上に惡臭を漲すであらう。……

一從者出る。

君はオクテーギヤス・シーザーさんに仕へてゐる人ぢやないか？

從者

さやうでございます。

アント

シーザーどのは、過日、オクテーギヤスさんにローマへ參らるゝやうに申し送られた筈だが。

從者

其御書面を入手せられましたので、主人は參らるゝのでございます。就きましては、口上を以て手前から貴下さまへ……おゝ、シーザー！

死骸を見て驚く。

アント

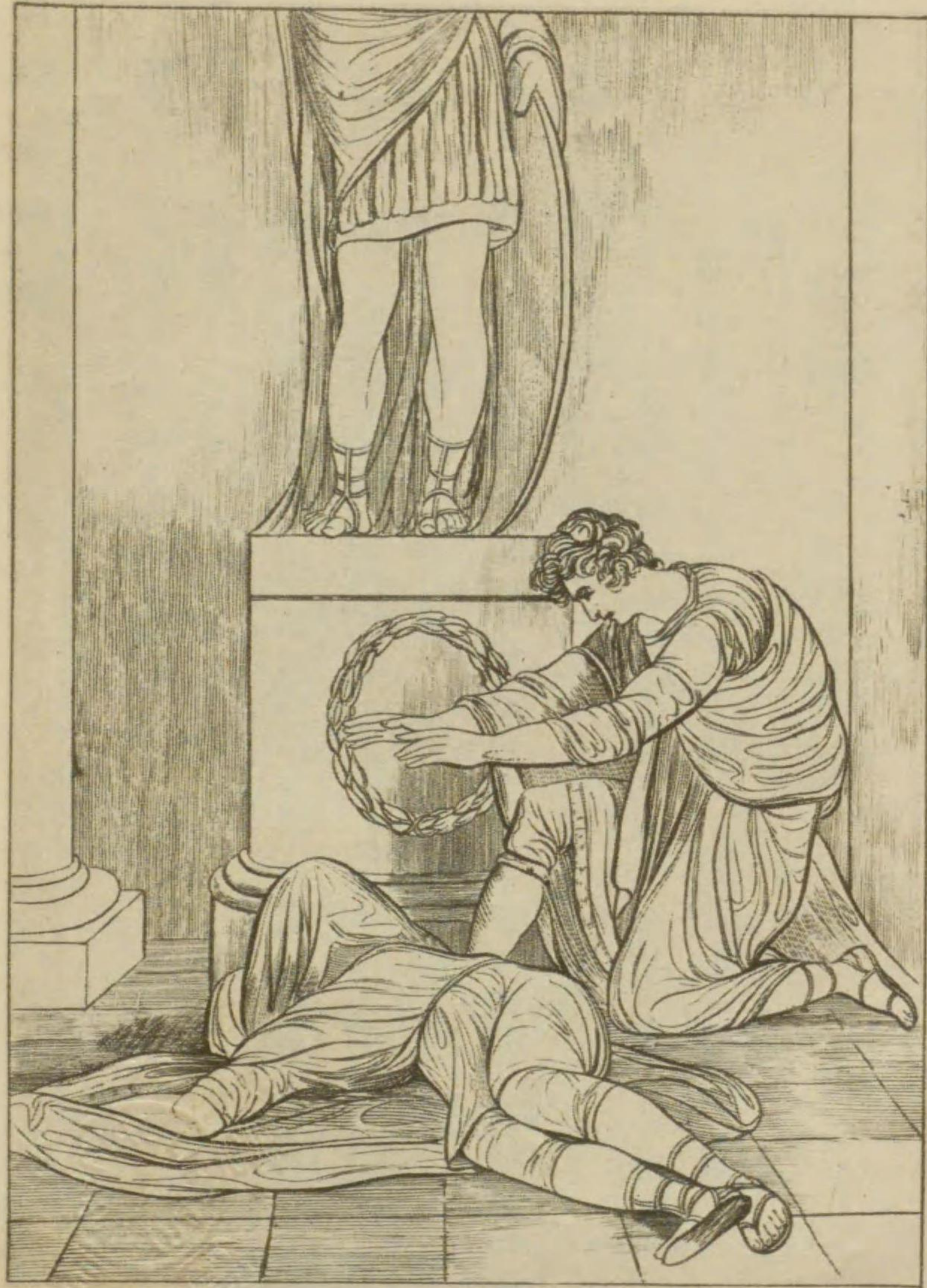
胸が一ぱいになったなら、彼地へ往つて泣くが可い。……愁歎は傳染する、お前の目に涙の珠の宿るのを見たら、予の目も濡つて來た。……御主人はもうぢき見えるか？

従者

今晚はローマから十里以内の處に宿られまする筈でございます。

アント

急いで戻つて行つて、此大變を傳へて下さい。目下のローマは喪中のローマだ、危険千萬なローマだ、オクテーギヤスさんにとつて安全なローマぢやない。急いで歸つて、然ういひなさい。……いや、一寸俟つた。……予が此死骸を公會場へ持つて行くまでは歸つちや不可。予は彼處で演説をして、公衆が此残忍な所行を如何感ずるかを探らうと思ふ。其結果を見てから、事情をオクテーギヤスさんへ傳へて貰ひたい。手を貸しなさい。



シーザーの死骸に嘆くアントニー。

シーザーの死骸を携へて、二人ともに入る。

第二場 戸外の公會場。

ブルータスとカシヤスが出る。其後に附きて多勢の市民。
こゝはローマの公會場で正面にはフォーラム（演壇）がある。

市民ら

其理由を聞かして貰はう、理由を聞かして貰はう。

ブルー

ぢや、従いて来て、聽いて下さい。……カシヤス、君は彼方の街

へ往つて下さい、聽衆を二手に分けよう。……予の演説を聴かう

とする諸君は此處にお留りなさい。カシヤスに従いて行く人達は

彼方へお出でなさい。國家の爲にシーザーを誅戮した所以を演説

しよう。

市民一

わしはブルータスの説を聴かう。

市民二 わたしはカシヤスのを聴かう。さうして双方のを比べて見ることにしよう、別々に聴いておいて。

カシヤス市民の若干をひきつれて入る。ブルータス演壇に上る。

市民三

ブルータスどのが登壇せられた。静かに〜！

ブルー

済むまで静肅にして下さい。……ローマ人よ、國人よ、親友諸君

よ！ 予の理由を聴いて下さい、理由を聴くために静かにして下さい。予の人格を信じて下さい、信じて下さるために予の人格に重きを置いて下さい。諸君の賢明な批判を乞ひます、賢明な批判者たるに適するために、十分分別力を奮ひ起されたい。……此群衆中にシーザーの眞の親友が居らるゝなら、予は其人に對つて言ひます、ブルータスのシーザーを愛する心も決して其人に劣らなかつた

と。では、何故ブルータスはシーザーに敵對したか、と若し其人が問はれるなら、予は斯う答へる。それはシーザーを愛する心が浅かつた爲ではない、ローマを愛する心が更にそれよりも深かつた爲である。諸君は、シーザーが生きてゐる爲に、一同が奴隸となつて死ぬのを望まれるか、シーザーが死んだ爲に、一同が自由の人民となるよりも？ ……シーザーは予を愛してくれたゆゑに予は彼れの爲に泣く。彼れは好運であつたゆゑに、予はそれを歡ぶ。彼れは勇敢であつたゆゑに、予は彼れを尊敬する。けれども彼れは非望を抱いてゐたゆゑに、予は彼れを誅戮しました。愛に報ゆるには涙を以てし、幸運を祝ふには歡びを以てし、勇敢を稱するには名譽を以てしたが、其非望を罰するには死を以てせざるを得ない。奴隸となるのを願ふやうな卑劣人が此處に一人でもありますか？

有るなら、お言ひなさい。予は、其人に對しては、罪を犯した。こゝにローマ人たることを欲しないやうな野蠻な人間が一人でもありますか？ 有るなら、お言ひなさい。其人に對しては、予は罪を犯した。こゝに其國を愛しないやうな下劣な人間が一人でもありますか？ 有るなら、お言ひなさい。其人に對しては、予は罪を犯した。予は御返答を俟ちます。

市民ら

ありません、ブルータス、ありません。

ブルー

ちや、何人に對しても、予は罪を犯さなかつた。予がシーザーに對して爲た事は、今後諸君が此ブルータスに對してなさるべき事に外ならんです。シーザーを誅した理由一切は、議事堂の記録に載せてあります、彼れが榮譽功績に属する事をも滅殺せず、又誅されるに至つた所以の罪惡とても決して誇張してはありません。……

アントニー及び其他がシーザーの死骸を擔荷ひつゝ出る。

あそこへ、シーザーの死骸を持つて参つた、マーク・アントニーが喪主となつて。彼れはシーザー誅戮の企圖には與りませなんだが、其利益は享樂して、此共和國に於ける相當の地位を得る筈です。それは諸君とても同様です。……お別れするに臨んで、もう一言。……予はローマの幸福の爲に無上の親友を殺したのである以上、同じ短劍の此身に對しても使用されんことを望みます、萬一、我國が予の死を欲するやうな場合となつたら。

市民ら

ブルータス、萬歳！ 萬歳！ 萬歳！

市民一

大喝采をしてブルータスを自宅まで送つてゆきませう。

市民二

先祖のブルータスのと並べて肖像をおつたてませうよ。

市民三

シーザー（の代り）にしようぜ、あの男を。

市民四 シーザーの美所だけが、(さうなりや)あの仁に依つて發揮されようといふものだ。

市民一 みんなで大喝采をして囃し立て、ブルータスを自宅まで送つてゆかう。

ブルー 國人諸君よ……

市民二 シッ! シッ! 静かに〜! ブルータス君の御演説だ。

市民一 静かに〜!

ブルー 國人諸君よ、予は一人で歸らして下さい。お願いです、諸君はアントニーと共に此處に留つて下さい。シーザーの遺骸に敬意を表して、彼れが舊功を稱するアントニーの弔辭をお聴き下さい、わたし共の許諾を得て述べるのですから。お願いします、アントニーの弔辭が済むまでは、一人も退場なされないやうに望みます。

ブルータス入る。

市民一 待つたり〜! マーク・アントニーの弔辭を聴かうよ。

市民三 アントニーを演壇へ上らせませうぜ。弔辭を聴きませう。……アントニー君、お登んなさい。

アント ブルータス君のお庇で、諸君、ありがたく存じます。

市民四 ブルータスの事を何と言つたい?

市民三 ブルータス君のお庇で、諸君、ありがたく存じますと言つたよ。

市民四 こゝちやブルータスの悪口なんか言はないのが上策だからなア。

市民一 あのシーザーて奴は酷い奴だったねえ。

市民三 そりや君、定つてるよ。あんな奴の居なくなつたのはローマの幸福だよ。

市民二 シッ〜! アントニーが如何なことを言ふか、聴きませうぜ。

アント 温厚なるローマ人諸君よ……

市民ら おいしく、しづかに！ ねえ、聴きませうよ。

アント 親友よ、ローマ人よ、國人諸君よ、御静聴を煩はしたい。自分が

此處へ参つたのは、シーザーの葬儀を行はう爲で、彼れを稱讚しよ

う爲ではない。人の行つた悪事は其死後までも残るが、善事は往

往にして其骨と共に埋没します。シーザーをもまた然うあらしめ

ませう。……ブルータスどのはシーザーは非望を抱いてゐたと申

された。果して然らば、それは甚だ痛ましい過失であつて、シー

ザーは甚だ痛ましい應報を蒙つたのであります。こゝにブルータ

スどのははじめ其他の人々の許諾を得て……と申すのは、ブルー

タスは公明正大の人格者であり、其他の人々とても悉く公明正大

の人々でありますから……許諾を得て、こゝにシーザーを葬るの

辭を演べるのであります。……彼れは自分の親友であつた、自分

に對しては忠實な、公平な友であつた。が、ブルータスは、彼れ

は非望を抱いてゐたといはれる、其ブルータスは公明正大の人格者

である。……シーザーは嘗て夥多の捕虜をローマへ伴ひ還つた、

其償金は悉く國庫に收められた。此、シーザーの行爲が非望家

らしく見えませんでしたらうか？……嘗て貧民が飢餓に叫ぶのを聞いて

シーザーは泣きましたぞ。非望は一層峻酷な素質のものでなけれ

ばならん。けれどもブルータスは彼れは非望を抱いてゐたと言は

れる、其ブルータスは公明正大の人格者である。……諸君は何れも

見られたであらう、リューパーカルの祭日に、自分は三度までも王

冠をシーザーに呈した、それを彼れは三度までも辭した、あれが

非望でありませうか？……けれどもブルータスは彼れは非望を抱

いてゐたと言はれる、其ブルータスは確かに公明正大の人である。自分は決してブルータス君の言はれたことを論駁しようとするのぢやない、只知つてゐるだけの事實を申すのである。……諸君は何れもシーザーを愛してをられた、それには相當の理由があつた筈です。然らば、どういふ理由で諸君は彼れを哀悼することを差控へられるのです？……おゝ、判断力！ 理非を判ずる分別力は、今は獸類などの有に歸して人間は理性を失つてしまつたのか？……御免なさい。予の精神はシーザーと一しよに此柩の中に入つてゐる、それが戻つて来るまでは物が言はれません。

市民一

市民二

市民三

大ぶ言つてゐることに道理があるやうだね。

正當に考へて見ると、シーザーは非常な冤罪を蒙つたんだねえ。

ね、諸君、さうでせう？ もつと悪い奴が出て来て代るまいもので

もないからね。

市民四

アントニーの言つたことにお氣が附きましたか？ シーザーは王冠を受けようとしませんでしたよ。ですから、確かに彼れは非望家ぢやアなかつたのでさ。

市民一

果してさうだとすると、何處の手合が嚴重い目に逢ふことになりませうぜ。

市民二

やれ〜、氣の毒なこつた！ 涕で以て目が火のやうに赤くなつてゐる。

市民三

ローマ中にアントニーほどの偉い人はないなア。

市民四

さア、聽いたり〜。又始めますよ演説を。

アント

つい昨日まではシーザーの一言は全世界に匹敵することも出來たのであつた。今や彼れは此處に横たはり、如何な卑しい匹夫さへも

彼れに敬意を表しようとはしない。……お、諸君よ、若し自分が假にも諸君を煽動して憤激させ、反抗心を起させたりするやうだと、それはブルータスを傷け、カシヤスを傷けることになる、彼人達は、諸君御存じの通り、公明正大の人格者である。自分は彼の人々を傷けることを欲しない。自分はこのやうな、公明正大な人を傷けるよりは、寧ろ世に亡き者を傷け、自分を傷け、諸君を傷けたはうがよいと思ふ。……併しながら此處にシーザーの捺印を経た一葉の書面がある。シーザーの納戸内で発見したのですが、これは彼れの遺言状です。若し平民諸君が、只一寸でも此遺言状の主旨をお聴きなすつたなら……御免なさい、無論、自分は讀みはしないが……若しお聴きなすつたら、諸君はシーザーの死骸に驅寄つて、其傷口に接吻し、其神聖な鮮血に各自の手巾を浸すどこ

ろでなく、其頭髮一筋をも後の紀念にと争ひ求めて、御自分が死なうとせられる其間際には、遺書中にそれを記入し、永く子孫に譲り傳へる寶物ともなさるであらう。

市民四

市民ら

アント

其遺言状が聴きたい。讀んで下さい、マーク・アントニー。遺言状、々々々！ シーザーの遺言状が聴きたい。

まあ、お鎮りなさい。遺言状を讀んではなりません。シーザーが深く諸君を愛してゐたことを諸君が知られるのは宜しくない。諸君は木でも石でもなく、人間である。既に人間である以上、シーザーの遺言状を聴かれたなら、必ず感激して、狂人のやうになられるだらう。諸君はシーザーの財産の相續人だといふ事は知られないがい。若しそれを知られると、お、何様な事になるか知れない。

市民四 遺言状を讀んで下さい！ 是非聴きたいんです、アントニー。是非、遺言状を讀んで下さい、シーザーの遺言状を。

アント まゝ、まゝ、しばらく待つて下さい。……あゝ、つい不覺的口走つてしまった。公明正大の目的の爲に、短劍の亂撃でシーザーを刺殺した人達を傷けることにならなけりやいゝが、あゝ、困つたことになつた。

市民四 彼奴等は謀叛人です。公明正大どころか！

市民ら 遺言状を！ 其書面を！

市民二 彼奴等は悪黨です、人殺しです。遺言状を！ 遺言状を讀んで下さい。

アント どうしても遺言状を讀めと言はれるんですか？ ぢや、シーザーの遺骸の周圍へ環形におんななさい、遺言状を製した當人を諸君に見せ

市民ら ませう。……壇を降りませうか？ 下りてもよろしいんですか？
お下りなさい。
市民二 降りたまへ。
市民三 よろしいです。

アントニー壇を下る。

市民四 環形だ。圍繞くんだ。

市民一 柩から離れる。死骸から離れる。

市民二 アントニーさんの道を開ける。どうも實に偉いもんだアントニーさんは。

アント これ、さう押しては不可。ずっと離れて下さい。

市民ら 退れ！ 開ける！ 退れ！

アント 諸君に若し涙があるなら、今こそ流す準備をなさい。……諸君は

何れも此外套を御存じであらう。予はシーザーが初めて之を著用した日を覚えてゐる。それは或夏の夕方、勁敵ナーガイ族を征伐して大勝利を得た其日に、陣營中で被たのであつた。御覽なさい、いい、これ此處をカシヤスの短劍が刺貫いたのだ。御覽なさい、奸悪なカスカメが如何なに研つたか？ 此處をば子のやうに愛されてゐたブルータスが突通したのだ。そして彼れが其惡むべき刃を抜取つた其途端に、御覽なさい、シーザーの鮮血が其後を追つて、さながら人が戸口から走り出るやうに流れ出たのを、今無慚な叩き方をしたのは、よもや、ブルータスぢやあるまいが、と見定めようとしたかのやうに。何故なれば、ブルータスは、諸君も御存じの通り、シーザーの守神も同様であつたからです。如何に深くシーザーが彼を愛してゐたかは、おゝ、神々よ、あなたがたが御承知のことだ！

これこそ最も残忍無慈悲な切口であつたのだ。流石の大シーザーもブルータスが自己を刺すを見ては、……謀反人の力よりも遙かに怖ろしい彼れが恩知らずの振舞を見ては……流石の大勇氣も打挫かれ、おのが外套で面を掩うて、ポンピーの像の脚下にすらも、大シーザーは倒れたのだ、血汐が迸り流るゝ間に。おゝ！ 國人よ、同胞よ、シーザーが倒れたのは國が倒れたのも同様ですぞ、それと同時に、自分も、諸君も、吾々悉くが倒れたのだ、而して残忍無慚の叛逆人等は倒れた吾々を眼下に見下し、凱歌を奏して勝誇つた。……おゝ！ 今こそ諸君は泣く。して見ると、流石に惻隱の感に堪へられんと思える。あゝ、其涙こそは恩を知り、義を知る涙だ。……やア！ 諸君、これは只シーザーの外套に傷が附いたに過ぎない、然るに諸君は之を見てさへもお泣きなさるか？……さ、

これを御覽なさい、これが本人です、これ、此通り、謀反人共に切りさいなまれた本人です。

市民一 お、氣の毒な有様だ！

市民二 お、偉い〜シーザーどのを！

市民三 お、情ないことだ！

市民四 お、謀反人めら！ 悪黨めら！

市民一 お、無慚なく有様！

市民二 復讐をしよう。

市民ら 復讐をしよう！……出かける！……捜せ！……焼討しろ！……

……火をつける！……殺せ！……やっつける！……謀反人めらは一人でも生かしておくな。

アント お待ちなさい、お待ちなさい。

市民一 シュ〜！ アントニーさんが何か言ってる。

市民二 おい〜、あの仁の言ふことを聽かう、あの仁に従って行かう、あの仁と一しよに死なう。

アント

深切なる諸君、親友諸君よ、自分の申したことが原因となつて、諸君が然らう妄に唐突に暴擧に及ばれるやうなことがあつては成りません。此度の事を行つた人達は、何れも公明正大な人々であります。如何なる私怨、私憤があつて、嗚呼！ かやうな事を敢てせられたか、それは自分の知る所でない。ともかくも、彼等は賢明でもあり、又、公明正大でもあるから、無論、諸君に對して、道理らしい辯解をせられるであらう。親友諸君よ、自分は諸君の心を盗まうとして來たのではない。自分はブルータスのやうな雄辯家ではない。否、諸君の豫て御存じの通りの、質樸な、木訥な、只友を

愛するだけの男である、それをまた彼等が知つてをればこそシーザ
 ーの爲に公けに演説することをも許したのである。無論、予は才
 智もなければ、文字もなく、徳もなく、身振手眞似も下手なれば、
 表白法も知らず、辯舌も拙く、逆も人の血を攪亂するやうな力は無
 い。予は只眞直に辯じ得るのみである。諸君の知つてをられる事
 實其儘を諸君に話して、なつかしいシーザーの傷口を……哀れな、
 無慚な、物を言ひ得ない口を……諸君に見せて、予は代つて語ら
 せたまで、ある。が、若し予がブルータスで、ブルータスが予で
 あつたなら、必ずや諸君の心を攪亂して、ローマ街頭の石をすらも
 奮起せしめ、立地に暴動を起さすやうな雄辯をシーザーが一つぐ
 の傷口から發せしめたでもあらうものを。
 暴動を起さう。

市民ら

市民一

ブルータスの家を焼いてくれよう。

市民三

ぢやア、出掛ける！ さア、徒黨の奴等を捜し出せ。

アント

まア、お聴きなさい、諸君。まア、予の言ふことをお聴きなさい。

市民ら

しっく……！……聴け、アントニーさんの言ふことを……

アント

えらいもんだなア、アントニーさんは。

諸君よ、君がたは理由をよう承知しないで事をしようとしてをられ
 る。シーザーは何故にそれほどまでに諸君に愛慕せらるべきであ
 るか、御存じか？ あゝ！ 諸君は御存じでない。では、それを
 改めてお話しねばならん。諸君は先刻申した遺言状の事をお忘れ
 なすつたのだ。

市民ら

さうく！ 遺言状！ 諸君、待つたり、遺言状を聴かうよ。

アント

これがシーザーの捺印を経た遺言状です、シーザーはローマ市民各

自へ、一人々々へ、七十五ドラクマをお贈りします。

市民二 實に、どうも、立派な人だシーザーは！ 復讐をしよう。

市民三 どうも、實に、豪儀な人だなア、シーザーは！

アント 静かにして聽いて下さい。

市民ら シッ！

アント 尙ほ其上に、彼れは自分の遊歩地を悉く諸君にお譲りしました。

即ち彼れの私有に屬する各處の涼亭をはじめ、近時新たに樹木を植

つけさせたタイバー河の此方岸の各處の庭園をば、諸君及び諸君の

子孫に、永久に譲渡し、諸君をして其處で享樂せしめ、自由に逍遙

せしめ、疲勞を慰めしめんことを望んでゐます。シーザーは斯う

いふ人であつた！ 何時、又、斯くの如き人が出て來るでありませ

るか？

市民一 もう決して出て來ません、もう決して！……さア、出掛けろ出

掛けろ！ 齋場へ往つて遺骸を火葬にして、それから、其燃さしを

炬にして、謀反人共の家を焼かう。……死骸を持上げろ、死骸を。

市民二 さ、火を取つて來い、火を。

市民三 腰掛をぶつたふせ。

市民四 長床几をぶつたふせ、窓を毀せ、何もかも叩き毀せ。

死骸を携へて、市民ら皆わめき騒ぎて入る。

アント さ、ヤツたり。……災厄よ、手始めをしたからは、好きなやう

にあばれるがい。

一從者出る。

何だ？

從者 オクテーギヤスどのは既にローマへ著せられました。

アント 何處どこにをられる？

從者 レピダスどのと御ご一しよにシーザー邸ていにをられます。

アント すぐ訪たずねることによしよう。ちやうど待つてゐたところだ。運命うんめいの

神かみの機嫌きげんが好いい、此體このていぢや如何どうな願ねがひでも叶かなへてくれさうだ。

從者 噂うはさによりますと、ブルータスとカシヤスは、まるで狂人きやうじんのやうに馬うま

を走はしらせて、ローマの都門ともんを脱出ぬけだしましたさうにござります。

アント 多分たぶん、おれが公衆こうしゆうを感動かんどさせたことを洩聞もれきいた爲ためであらう。……

オクテーギヤスの處とこへ案内あんないせい。

アントニーも從者じゆうしやも入る。

第三場 同處。一街頭。

詩人しじん シンナ出る。

シンナ

昨夜ゆうべシーザーの宴會えんくわいへ招よばれた夢ゆめを見た。何なんだか不吉ふきつな鹽梅式あんばいしきに神經しんけいが働はたらいて困こまる。外出ぐわいしゆつする氣きは無ないのだが、何なんとなく出ですにはをられない。

市民しみんら出る。

市民一 君きみの名前なまへは？

市民二 君きみは何處どこへ往ゆくんだ？

市民三 君きみは何處どこに住すんでるんだ？

市民四 君きみは妻さいが有あるか、獨身どくしん者ものか？

市民二 各自めいこくへ返答へんたふなさい、眞直まっすくに。

市民一 さうだ、簡潔てみじかに。

市民四 さうだ、賢明りこうに。

市民三 さうだ、眞實ほんたうに……返答へんたふするのが當然たうぜんだ。

シンナ え、わたしの名？ え、何處へ往く？ え、何處に住つてゐる？

妻があるか、獨身者か？ ……ぢや御各自へお答します、眞直に、簡潔に、賢明に、眞實に。……ぢや、先づ、賢明なお答、わたしは獨身者です。

市民二 さういふと、何だか、妻を有つてると答へる奴は馬鹿だといふやうに聞えるぞ。こら、そんなことをいふと、一本お見舞申すかも知れないぞ。……それから、さ、眞直に。

シンナ 眞直に、これからシーザーどの、葬式へ参ります。

市民一 身方としてか、敵としてか？

シンナ 身方です。

市民二 こりや眞直な返辭だ。

市民四 君の住所は？ さ、簡潔に。

シンナ 簡潔に、議事堂脇です。

市民三 名前は？ さ、眞實のところ。

シンナ 眞實のところ、名はシンナ。

一市民 やつつけろ。徒黨の一人だ。

シンナ わたしは詩人のシンナです、詩人のシンナです。

四市民 やつつけろ、拙い詩を作りやアがった罰だ、悪い詩を作りやアがった罰だ。

シンナ わたしは徒黨のシンナぢやない。

二市民 かまつたことはない、名がシンナだ。野郎の心臓から名前を引こ抜いて、おッ拂ッちまへ。

三市民 やつつけろ。さア、燃さしを持って来い、燃さしを！

炬火々々！ ブルータスのとこへ往け、カシヤスのとこへ。みんな

な焼いっちまへ。だれかディーシャスの家へ往け、それから誰れか
 カスカのそこへ。だれかライゲリーヤスのそこへ。あっちへあつ
 ちへ！ さア〜！
 皆々入る。

第四幕

第一場　ローマ。アントニーの宅の一室。

アントニー、オクテギーヤス及びレピダス出る。

アント　では、此連中は死刑とします。名前に記號を付けました。

オクテ　貴下の兄貴も死刑にせにやならんが、御承諾ですか、レピダス？

レピダ　承諾はしますが……

オクテ　記號を付けて下さい、アントニー。

レピダ　其條件として、マーク・アントニー、貴下の姉御の子息パブリヤス

も同刑に處することにして貰ひたい。

アント　彼れも生かしちや置きません。御覽なさい、此通り點を付けて死

罪仲間にします。……時に、レピダス、君はシーザーの邸へ往つて、例の遺言状を取つて来て下さい。こゝで協議して、遺産の支拂額を多少削減することにしませう。

レピダ

え！ 此處へ持参すりやいゝのですか？

オクテ

若しこゝにゐなければ議事堂にゐます。

レピダス入る。

アント

やくざな、長所の無い男だ、使に行く位が相應だ。天下を三分した場合に、奴に其一分を有たせるのは當然でせうかな？

オクテ

當然だと思ひなすつたればこそ、貴下は公敵宣言の協議にも與らせ、死刑相當者の調査にも彼男の賛否をお求めなすつたのぢやアないかね？

アント

オクテーギヤス、予は貴下よりも年を取つてゐますよ。 讒誣誹謗の

因となる負擔を吾々のみで負はないために、わざと、一時、奴に榮職を荷はせておくものゝ、つまり、彼奴は、譬へば、驢馬が金貨を荷つて行くと同じ格で、其榮譽を荷つてゐるのです。吾々が方向を指圖するに随つて、引張られたり追立てられたりして、重荷の爲に汗を流して唸きながら、吾々の欲する處へ寶物を運んで行く、やがて其荷物を下してしまへば放免する、と、ちようど身輕になつた驢馬のやうに、長い耳を一振揮つて、共同牧場で飼草にありつかうといふ仲間です。

オクテ
お好み通りになさるのは結構でせうが、彼男も中々場敷を踏んだ勇敢な武人ですから。

アント
予の馬がさうです、オクテーギヤス。で、予は、それに對して、平生十分の飼草を與へておきます。予が教へて戦はせもする、ぐ

るりと廻らせもする、止らせもする、驀地に突進させもする、要するに、一進一退、悉く予の意志のまゝなのです。そこで、或意味に於て、レピダスが全くそれです。あれは教へたり馴したりした上に號令をかけねば役に立たん。働きの無い男だ。他人の使ひ棄を捨つたり、人真似で智慧を補つたり、しかも世間ではもう夙に廢滅に歸した頃に、珍しげにそれをやりかける男です。彼れは、只もう小道具同様だとお思ひなさい。……さて、そこで、オクテーギヤス、大切な事件があります。ブルータスとカシヤスは頻りに兵を募つてゐるといふことだ、此方も速かに集合せねばならん。ですから、先づ同盟者共を糾合し、有力な手合を身方にし、十二分に軍備を擴張させよう。同時に、如何にして公然の危害を鎮壓すべきか、又如何にして未發の陰謀を探偵すべきか等、早速御相談に取り

掛りませう。

オクテ
さうしませう。吾々は杭に縛り附けられた熊同様に、敵を八面に控へてゐる。笑顔を見せてゐる手合も、胸には百萬の害心を包藏してゐるらしいから、油斷が出来ません。

二人ともに入る。

第二場

サーデイス 附近の陣營。 ブルータ

スの天幕前。

太鼓。 ブルータス、リユーシリヤス、リユーシヤス及び兵士等出る。 チ、ニヤスとピンダラスは他方より出でて前の一群と相逢ふ。

ブルー

とまれ!

リユー 合言葉を！ とまれ。

ブルー おい、どうだね、リユーシリヤス！ カシヤスは来るかね？

リユー 直見えます。ピンダラスが御主人の吩咐で、御挨拶の爲に参られました。

ブルー それは御丁寧なことだ。……ピンダラス、御主人は、近來人柄が一變せられたのか、或ひは下役に不都合な者があつた爲かも知れん

が、あゝいふ事は決してせらるべきでないと思ふやうな事をせられた。然し程なく此處へ見るとあれば、十分に辯解されるでもあらうが。

ピンダ 手前におきましては、主人は飽迄も立派な人物だと信じてをりま

す。

ブルー さうもあらう。……リユーシリヤス、一寸。……彼男が先日君を

待遇した模様は何様でした？

リユー 慇懃に、且つ頗る鄭重に。併し其以前のやうに極打解けて覆藏な

く親友らしく話をせらるゝといふやうなことはありませんでした。

ブルー それでよく分ります、熱かつた友誼の冷却した有様が。リユーシリ

ヤス、常に注意なさい、眞の愛情が衰へはじめると、言葉遣ひや其

他が故意らしく鄭重になるものです。生地の儘の信實には何の小

技工もないが、心に誠の無い者は、平生、手で引立てられる時に荒

廻る馬の様に、勇敢さうに見えてゐて、存外、實戦の役には立た

ず、忽ち首をうなだれてしまふ、ちやうど然ういふ駄馬同様に、い

ざといふ時の頼にはならん。……彼れの兵は來ますか？

リユー 今晚はサーデイスに宿泊することになつてゐます。大部分、即ち騎

兵全部がカシヤスどのと共に参ります。

奥にて調子低く進軍の樂聞える。

ブルー や！ 來たらしい。……徐かに進め、出迎ひをしよう。

カシヤス兵をひきつれて出る。

カシヤ とまれ！

ブルー とまれ！ めい／＼合言葉を。

第一兵 とまれ！

第二兵 とまれ！

第三兵 とまれ！

カシヤ 大兄、貴下は予に對して不正な事をなすつた。

ブルー 神々も照覽なされ！ 自分が曾て敵に對して、も不正な事を働いた

ことがあるか？ 若し無いとすれば、如何して兄弟に對つて不正を

働くか？

カシヤ ブルータス、さういふ沈著拂つた顔をしてゐて、貴下は内々不正な

ことをなさる。貴下が不正を……

ブルー カシヤス、まアお待ちなさい。靜かに不平をお述べなさい。予は

貴下の性質を善く知つてゐる。お互ひに部下の者には何等不和もな

いやうに見せておかねばならん、こゝで爭論するのは止めよう。

カシヤス、彼等を退かせておいて、其後、予の天幕内に於て、十分

に不平を述べられるが可い。とくと承はりませう。

カシヤ ピンダラス、將官共に、部下の者を少々遠ざけるやうに申しつけ

ろ。

ブルー リューシリヤス、其方も同様に取計らへ。密談の濟むまでは、だれ

も天幕へ來てはならんぞ。……リューシヤスとチ、ニヤスは入口の

番をして下せよ。

皆々入る。

第三場 ブルータスの天幕内。

ブルータスとカシヤスと出る。

カシヤ

貴下が不正な事をなすつたといふ證據は斯うだ。貴下はリユーシヤス・ペラが此處でサーディヤ人から賄賂を取つたといふので、彼れを告發して罪名をお附けなすつた、それについて、予は彼れの爲に宥免を乞ふ書面を送つて……といふのは、彼れが貶辱を受けた上に放逐せられたと聞いたからで……

ブルー

あのやうな場合に調停の書を送るなどは、貴下みづからを侮辱するやうなものだ。

カシヤ

あのやうな場合には、瑣末な犯罪は成るたけ寛大に見逃すべきで

す。

ブルー

カシヤス、予は敢て言ふが、君みづからが大分貪婪家だといふ非難がある。黄金の爲に無能な者に官職を賣るといふ非難がありますぞ。

カシヤ

予を貪婪家だ！ ブルータス、君は、それを言ふのはブルータスだと承知して言はれるんだが、さうでなくば、今の一言は、必ず、君の最後の言葉でありましたらうぞ。

ブルー

カシヤスといふ名前があるので、賄賂請託の醜を掩ふ。さうでなくば、とうに懲罰が下るべきだ。

カシヤ

懲罰！

ブルー

お忘れなさるな三月を、三月の十五日をお忘れなさるな。大シーザーが血を流したのは正義公道の爲ではなかつたか？ 彼れを殺す

に與つた者で、正義公道の爲でなくって、彼れの身體に手を觸れた卑劣漢が一人でもあつたか？ えッ！ 盜賊を扶掖するやうな行爲があつたればこそ、それが爲にこそ現代無比の英傑を誅戮した吾々が今更穢い賄賂に指を汚して、斯うして擱める程の目腐れ金に代へて、宏大無邊な大切な名譽が賣られるか？ そんなローマ人になる位なら、寧ろ犬になつて月に吠えたはうが優だ。

カシヤ

ブルータス、さう咬附くやうにお言ひなさるな、堪忍に限りがありますぞ。予を束縛しようとするのは自己を忘れた振舞ですぞ。予は武人だ、兵事にかけては君よりも年を取つてゐる、將校任免の心なぞも君より年功ですぞ。

ブルー

何の、そんなことがあるものか？

カシヤ

あります。

ブルー

いゝや、ない。

カシヤ

大抵になさらんと、何をするか知れませんが予は。身の安否を考へて、あんまり予を挑發なさらんが可い。

ブルー

去ッちまへ、小人！

カシヤ

どうも、實に！

ブルー

これ、よくお聴きなさい。君が癩癬を起したからって、予が讓歩する必要が何處にあるか？ 狂人が目を怒らしたからって、予がそれを怖れる必要が何處にあるか？

カシヤ

おゝ、神々よ！ 神々よ！ 神々よ！ 神々よ！ これほどに言はれても、忍耐せねばならんか？

ブルー

勿論だ！ これ以上をも。其高慢な心の臟が破裂するまで腹を立つが可い。其癩癬を君が使つてゐる奴隷に見せて、戦へ慄かすが

可い。予が何の必要あつて辟易し、何の必要あつて君の機嫌を取らうぞ？ 君が癩癩を起したからつて、何の必要あつて突立ったり平伏したりしようぞ？ 君は勝手に、自分で癩癩の毒を始末するがい、胸が裂けようと、腹が裂けようと。これから以後、君が癩癩を起しや、予はそれを好い慰み、好い笑柄にする積だ。

カシヤ

餘といへば……

ブルー

君は、今、予よりも優つた武人だといった。其證據が拜見したい。其高言の實證を見せて下されば、満足の至だ。自分は喜んで英邁の士の教を受けようと思つてゐる。

カシヤ

君は實に酷いことを言ふ。君は實に酷い、ブルータス。予は、武人として君よりも年長だと言つたばかりです、優つてるとは言やアしない。優つてるといひましたか？

ブルー

いつたつても關はん。

カシヤ

シーザーが生きてゐたつても、これほどまでには、敢て俺を怒らせはせなんだであらうに。

ブルー

黙れ、お黙りなさい！ 君は逆もこれほどまでには彼れを挑發し得なかつたのだ。

カシヤ

挑發し得なかつた？

ブルー

さうさ。

カシヤ

えッ？ 予がシーザーを挑發し得なかつたと？

ブルー

命が惜しいから、挑發し得なかつたのだ。

カシヤ

あんまり予の愛をお頼みなさるな。予は自分で後悔するやうな事をし兼ねませんぞ。

ブルー

君は後悔せねばならんことをしたのだ。カシヤス、君が幾ら威し

でも予は少しも怖しくない。予は正義の甲冑で堅固に身を固めてゐるから、君の恐嚇は空吹く風同様、念頭に置かない。予は君の處へ使者を送つて……君はそれを拒んだが……若干の金員を借りようとした……といふのは、予は卑劣な方法で金を取立てることには得爲ないからだ。眞實、百姓共の彼の硬い掌から穢しい端金を振取る位なら、此心臓を貨幣に鑄させて、滴る鮮血の一滴々々を下ラクマの代りに使つたはうがい。予は部下に拂ひ渡す金を借りにやつたのだに、君は拒んだ。それがカシヤらしい行爲か？ ブルータスがカシヤスにあんな返辭をしたであらうか？ マーカス・ブルータスが目腐れ金を親友に惜むほどに、さほどに鄙吝になつたならば、おゝ、神々よ、速かに天雷を下して、彼れを微塵となさせたまへ！

カシヤ

予は拒んだ覚えはない。

ブルー

いゝや、拒んだ。

カシヤ

拒んだ覚えはない、きつと予の返辭を傳へた奴が馬鹿なんだ。……ブルータスの言つたことで此心は突裂かれた。其友の過失を忍耐してくれてこそ親友であるのに、ブルータスは俺の過失を其實よりも大きくしようとする。

ブルー

大きくはしない、予に對してすらそれを行ふから止むを得ないのだ。

カシヤ

君は俺を愛してゐない。

ブルー

君の過失を好く譯にはいかん。

カシヤ

親友は決してさういふ過失なんか見附け得ない筈だ。

ブルー

詔諛者なら故と見んやうにもするであらう、オリンパスほどの大き

な過失をも。

カシヤ 來をれ、アントニー！ 青二才のオクテーギヤスも來をれ！ 俺ばかりを敵にして思ふ存分にヤツつけてくれ。カシヤスはもう此の世に厭き果てた。愛する友には憎まれ、兄には侮辱され、奴隷のやうに罵り辱しめられた以上は、ありつたけの過失を數へ立て、手帳に書留めて、熟讀し暗誦して、我面へ叩き附けられた以上は。おゝ！ 俺は悔し泣に泣いて、命を泣きつぶすことも出來ようわい。さ、こゝに俺の短劍がある、さ、これが俺の赤裸々の胸だ。此胸の中にはプルートルの金庫よりも大切な、黄金よりも隻に貴い心臓がある。君が見事ローマ人なら、それを取れ。金を君に拒んだ俺が、君に自分の心臓をくれてやる。さア、斬れ、君がシーザーをやつつけたやうに。君はシーザーを最も深く悪んでゐた時で

ブルー

も、カシヤスを最も深く愛してゐた時よりは愛してゐたんだ。鞘へお容れなさい劍を。怒りたい時には怒るが可い、思ふ存分に。君が如何な不名譽なことをしようも、一時の氣分と見ておくから。おゝ、カシヤス！ 君の相手は小羊だ、怒氣を帯んだッても、燧石が火氣を帯ぶやうなものだ、手酷く衝突られりや火色を發するが、すぐ又冷たくなつちまふ。

カシヤ

此カシヤスは、ブルータスの好い慰みになるために、好い笑草になるために、今日まで生きてゐたのか？ 憤慨に堪へないでゐるのに、持病の痼癖に苦しめられてゐるのに！

ブルー

つい、然う言つたけれども、それは其つゝ痼癖の餘りに言つたんだ。え、さうまでに言つてくれるか、君？ ……手を下さい。

ブルー

(握手して) 此心をも。

カシヤ おゝ、ブルータス！

カシヤス泣く。

ブルー どうしたんだ？

カシヤ 君は俺を堪忍してくれるだけの深切心はないのか？ お袋の遺傳の

痼癖の爲に、つい前後を忘却する事のある時分に。

ブルー 堪忍するよ、カシヤス。これからは、君が予に無理な事を言った

ら、あゝ、又、お袋が嘸々言ひ出したのだと思つて、氣にかけんこ

とにしよう。

奥にて騒がしい人聲。

詩人 (奥にて) 大將がたの様子を見て來ませう。何か仲たがひをしてご

ざるやうだ。さしむかひにして置くのは好くありません。

リユー (奥にて) 往かんはうが可い。



シーザーの亡霊ブルータスに現はる。

詩人

(奥にて) いや、生きてる以上、往きます。

詩人出る。曾呂利新左衛門といふ格の變人。其あとから

リユーシリヤス、チ、ニヤス及びリユーシヤス出る。

カシヤ

何だ！ 如何したんだ？

詩人

御大將がた、如何なされたのです！ 如何いふ御料簡です？ 「愛し

あうて仲よしどちとならせませ、いさかひたまふ年齢でなし。」「わ
が言葉聽入れたまへ、お二方、あなた方より年長の我れ。」

カシヤ

はゝはゝはゝ！ 此口悪屋めが思ひ切った腰折を並べをる！

ブルー

あっちへ行け、あっちへ。無禮者め、あっちへ！

カシヤ

堪忍なさい、ブルータス。これは彼奴の癖です。

ブルー

場所柄さへ辨へてすれば、恕してもやるが。駄洒落歌を詠む阿呆
者が戦場に何の用がある？ ……あっちへ往け！

カシヤ あっちへ〜！ ひっこめ。

詩人入る。

ブルー リューシリヤスとチ、ニヤスは、將校共に今夜軍隊を宿泊させる準備をしろと吩咐けて下さい。

カシヤ さうして君達には、メッセーラをつれて直に戻つて来て貰ひたい。

ブルー リューシリヤスとチ、ニヤスと入る。

カシヤ さうして君達には、メッセーラをつれて直に戻つて来て貰ひたい。

ブルー リューシヤス、酒を持って来い。

リューシヤス入る。

カシヤ 君があんなに腹を立てようとは思はなかつた。

ブルー 予には種々堪へられない悲痛があるんだ。

カシヤ 偶然の不幸なんぞは、例の哲學でお諦めなさるのが當然ぢやありませんか？

ブルー これ以上に忍び得る者はない。……ポーシヤが死んだのだ。

カシヤ えッ！ ポーシヤが！

ブルー 死んだんだ。

カシヤ ようまア予は殺されなかつたぞ、さうとも知らず君にあんなに腹を

立たせて！ おゝ、實に残念とも、痛ましいとも、言ひやうのない

大不幸だ！ ……どういふ病氣で？

ブルー 予と永く別れてゐるのに堪へかねたのと、オクターギーヤスとマーク・

アントニーが合體して勢力が強大となつたのをば苦に病んで……一

人が合體した事は妻の死去と一しよに知らせて来た……それで精神

が錯亂して召使の者の居らん間に、火となつた石炭を呑んだのです。

カシヤ さうして亡くなつたのですか？

ブルー さうだ。

カシヤ おゝ、神々！

リユーシヤス酒と蠟燭を持つて出る。

ブルー 妻の事はもう言はんことにして下さい。……酒盃をくれ。此中へ一切の不快や無情を葬つてしまふ。

カシヤ 其御誓約の酒盃を、眞實ありがたくいたゞきますぞ。……リユーシヤス、注いでくれ、なみくくと溢れるほど。ブルータスの愛の盃は幾ら飲んでも足りないばかりだ。

ブルー お入りなさい、チ、ニヤス。……

リユーシヤス入る。

メッセーラをつれてチ、ニヤス出る。

ようお出なすつた、メッセーラ。……さ、この蠟燭の周囲へ集つて、緊急の件を協議しませう。

カシヤ あゝ、ポーシヤは逝つちまつたか？

ブルー もうそれは止して下さい。……メッセーラ、予はこゝに通信を受取つてゐる、それによると、オクテーギヤスとマーク・アントニーが大軍をひきゐて攻寄せるといふことです、急にフィリップイの方へ進軍して。

メッセ わたくしも同主意の通信を受取つてをります。

ブルー 何等か別報が添はつてゐましたか？

メッセ 公敵宣言をいたしました上に、國法保護撤回をも行ひまして、オクテーギヤス、アントニー、レピダス、三人の手で、一百名の元老官を死刑に處したと申すことです。

ブルー 其點は予の受取つた通信と合はん所がある。予のには其公敵宣言で刑せられたのは七十人の元老とある、シセローも其一人で。

カシヤ シセローも其一人！

メッセ シセローも殺されました、其公敵宣言で。閣下は奥さんからの御

通信をお受取になりましたか？

ブルー いや。

メッセ 奥さんの事は、通信に何も書いてありませんでしたか？

ブルー 何にも。

メッセ それはどうも、不思議ですなア。

ブルー 何故それを訊くのです？ 君の受取った通信中には、何か妻の事が

ありましたか？

メッセ いえ、何も、その。

ブルー これ、君がローマ人である以上、事實をお話しなさい。

メッセ では、閣下も、ローマ人らしく、わたくしがお話し申すことをお願

へ下さい。……奥さんはお果なさいましたぞ、しかも奇怪な方法

ブルー では、ポーシャよ、さよなら。……人間は死なざるを得ないもので

す、メッセーラ。妻も早晚死すべき筈のものだと悟りや、忍ぶこと

が出来ます。

メッセ 大きい人物は、正にさういふ風にして、大きい悲痛をも忍ぶんです

なア。

カシヤ 予だつて貴下同様の修行をして来た積りなんだが、性來がそれを忍

ばせ得ない。

ブルー さ、活きた仕事に取掛らう。……フィリップパイへすぐ進發するか、

どうか？ 貴下は如何思ふ？

カシヤ 予は不利だと思ふ。

ブルー

といふのは？

カシヤ

それは斯うです。敵をして我軍の存在を探さしめるはうがよろしい。さうすれば敵は其力を浪費し、其兵士を疲勞させ、おのれ自身に害を加へることになる、其間、我軍は、じつとしてゐるから、十分休息もすれば防禦の準備も出来る、随つて敏捷活潑であるといふ利益が生ずる。

ブルー

善い理由も更に善い理由があれば棄てなければならん。フィリップアイと此地の間に住んでゐる人民は、止むを得ずして我黨に好意を表してゐるのである、それは彼等が厭々徴發に應じたのでも分る。で、若し敵軍が彼等を経過して進軍し來るやうであると、必ずや彼等を身方にし、大いに新手の人数を加へ、英氣を幾倍して攻寄せて來ることになるであらう、然るに若し吾々が此等二心の徒を我軍の

カシヤ

併し大兄……
後へにして敵をフィリップアイで逆へ撃つやうにすれば、さういふ利益を悉く敵軍から切離すことが出来る。

ブルー

いや、失禮だが……それに、考へて貰はんければならんことは、吾々は身方の者に最早最上の力を盡させてゐる、吾軍隊は英氣既に溢れてゐる、即ち我軍機は熟し切つてゐる。敵の兵力は日毎に加はるが、頂點に達した我兵力は今にも衰へんとしてゐる。潮時は人間の行動にも有る、満潮に乗じて事を行へば首尾よく運ぶが、其機を誤るといふと、一生中航海毎に淺洲や暗礁に乗上げて、淺ましい最期を遂げる。我軍は今ちやうど満潮の海に浮んでゐるのだ、此潮流を利用するか、難船して貨物を失ふか、何らかを取らんけりやならん。

カシヤ では、貴下のお好み通りになさい。此方から進んで行って、フィ

リップパイで逆へ撃つことにしませう。

ブルー 話をしてゐたら、知らない間に夜が更けた。自然の必要に逆らふ

ことは出来ない、お互ひに少し眠て、疲れを休めよう。もう何も
言ふことはあるまい？

カシヤ もうありません。……お寝みなさい。明朝は早く起きて出發しま

せう。

ブルー リューシヤス！……

リューシヤス出る。

俺の上衣を。……

リューシヤス入る。

御機嫌よう、メッセーラ。……お寝みなさい、チ、ニヤス。……

カシヤ カシヤス、カシヤス君、さやうならお寝みなさい。

お、大兄！ 宵にはつい不慮い事でしたが、二人の間に二度とか

ういふやうな行違のないやうに！ ねえ、ブルータス、二度とは。

ブルー よろしい、大丈夫。

カシヤ お寝みなさい。

ブルー お寝みなさい。

チ、ニ
メッセ
御機嫌よろしう。

ブルー さやうなら、諸君。……

カシヤス、チ、ニヤス及びメッセーラ入る。

リューシヤス上衣を携へて又出る。

上衣をくれ。……汝の樂器は何處に在る？

リュー こゝに天幕の中に在ります。

ブルー ヤ！ 眠さうな返辭をするなう！ かはいさうに、無理もない。汝は眠が足らんのだ。クロードイヤスと他に誰れか部下の者を呼んでくれ。此天幕の蒲團の上に眠させておかうと思ふから。

リユー ブローロー！ とクロードイヤス！

ブローローとクロードイヤス出る。

ブローロー お召になりましたか？

ブルー どうか君たち此天幕の中で眠てゐてくれ。後程カシヤスどの、許への用で起すかも知れんから。

ブローロー では、張番をいたしてゐまして、御意を俟ちませう。

ブルー それには及ばん。横になつてゐて下さい。考が變るかも知れんから。……こりや、リユーシヤス、書籍は此處にあつたわい、先刻搜した書は。上衣の衣囊へ容れといたのだった。

ブローローとクロードイヤスと横になる。

リユー たしかにおあづかり申した記憶はないと思ひました。

ブルー 堪忍してくれ、俺は大へんに忘れっぽくなつた。……眠いだらうが、少との間耐へて、一二曲樂器に觸つてくれんか？

リユー はい、かしこまりました、お氣に入りますなら。

ブルー 氣に入るとも。氣の毒だなう、併し善う言ふことを聽いてくれる。

リユー これはわたくしの義務でございます。

ブルー 汝の力以上の義務をさせてはならんのだ。若いうちは眠い筈のものだからなう。

リユー 眠ましたのです先刻既。

ブルー そりや可かつた、又眠るが可い。長くは引張らん。……俺が生きてゐれば可愛がつてやるぞ。……

リユーシヤス 樂器を弾じて歌を唱ふ。

さて〜、眠い節だ。おゝ、感覺を殺す睡眠が樂を奏してゐる此少年の頭の上へ鉛の槌を打下すと見える！……小僧よ、寢め寢め。起すのさへ氣の毒でならん。……がつくりと俯向くと樂器を毀すぞ。……此方へ取ツといてやらう。……小僧よ、寢め〜。……かうツと、かうツと。讀み残した處が折つてないかな？……むゝ、此處だつたらう。……

シーザーの亡靈出る。

どうも暗い蠟燭だ！……や！だれだ、そこへ來たのは？……こりや目の故だらう、あんな奇怪な者の見えるのは。……此方へやつて來る。……何か其處にゐるのか？……汝は何かの神か、何かの精靈か、何かの惡魔か、おれの血を冷くし、身の毛を彌立たせ

亡靈

る汝は？ 言へ、汝は何者だ？

お前に祟をする精靈だ、ブルータス。

ブルー

何故來た？

亡靈

フィリップパイで又逢ふといふことを知らせに。

ブルー

よろしい。ぢや又逢ふのか？

亡靈

さうだ、フィリップパイで。

ブルー

ぢや又フィリップパイで逢はう。……

亡靈消える。

や、勇氣が附いたと思つたら、消えつちまつたな。あゝ、まだ汝に言ひたいことがあつたに。……こら！リユーシヤス！……ブーロー！クローディヤス！起きてくれ、起きてくれ！クローディヤス！